

---

令和7年度 総合計画・重点戦略プラン進捗状況評価  
(令和6年度実施事業)

---

重点戦略13のプロジェクトに対する評価



由布市総合計画審議会

## 目 次

### I 総合計画の進捗管理について

1.総合計画の構成	・・・P1
2.重点戦略プランの13のプロジェクト	・・・P2
3.審議会の日程等	・・・P4
4.評価方法	・・・P5
5.総合計画審議会の評価視点	・・・P6

### II 総合計画13のプロジェクトの内容について

- プロジェクト1 地域防災力強化プロジェクト ・・・P10～17  
(担当・関係課：防災危機管理課、消防本部総務課、総務課)
  
- プロジェクト2 みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト・・・P18～23  
(担当・関係課：総合政策課、総務課)
  
- プロジェクト3 “市民が主体！”コミュニティ活性化プロジェクト・・・P24～29  
(担当・関係課：総合政策課、各地域振興課)
  
- プロジェクト4 地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト ・・・P30～35  
(担当・関係課：健康増進課、高齢者支援課、社会教育課)
  
- プロジェクト5 子どもたちを包み込む支えあい・助け合いプロジェクト P36～43  
(担当・関係課：子育て支援課、健康増進課、都市景観推進課)
  
- プロジェクト6 『由布の学び』創造プロジェクト ・・・P44～5  
(担当・関係課：学校教育課、社会教育課)

- プロジェクト7 食からはじめる健康づくり 食と農の再発見プロジェクト P52～59  
(担当・関係課：農政課、学校教育課)
  
- プロジェクト8 次世代につなげよう持続可能な仕事づくりプロジェクト P60～67  
(担当・関係課：農政課、商工観光課、総合政策課、各地域振興課)
  
- プロジェクト9 滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト . . . P68～75  
(担当・関係課：商工観光課、各地域振興課)
  
- プロジェクト10 民間学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト . . . P76～82  
(担当・関係課：環境課、水道課、建設課)
  
- プロジェクト11 由布ならではの移住・定住プロジェクト . . . P82～87  
(担当・関係課：総合政策課、各地域振興課)
  
- プロジェクト12 地域プロモーション推進プロジェクト . . . P88～95  
(担当・関係課：総務課、財源改革推進課、商工観光課、庄内地域振興課)
  
- プロジェクト13 ゆふツーリズム推進プロジェクト . . . 98～102  
(担当・関係課：農政課、総合政策課、商工観光課)

# I 総合計画（重点戦略）の進捗管理について

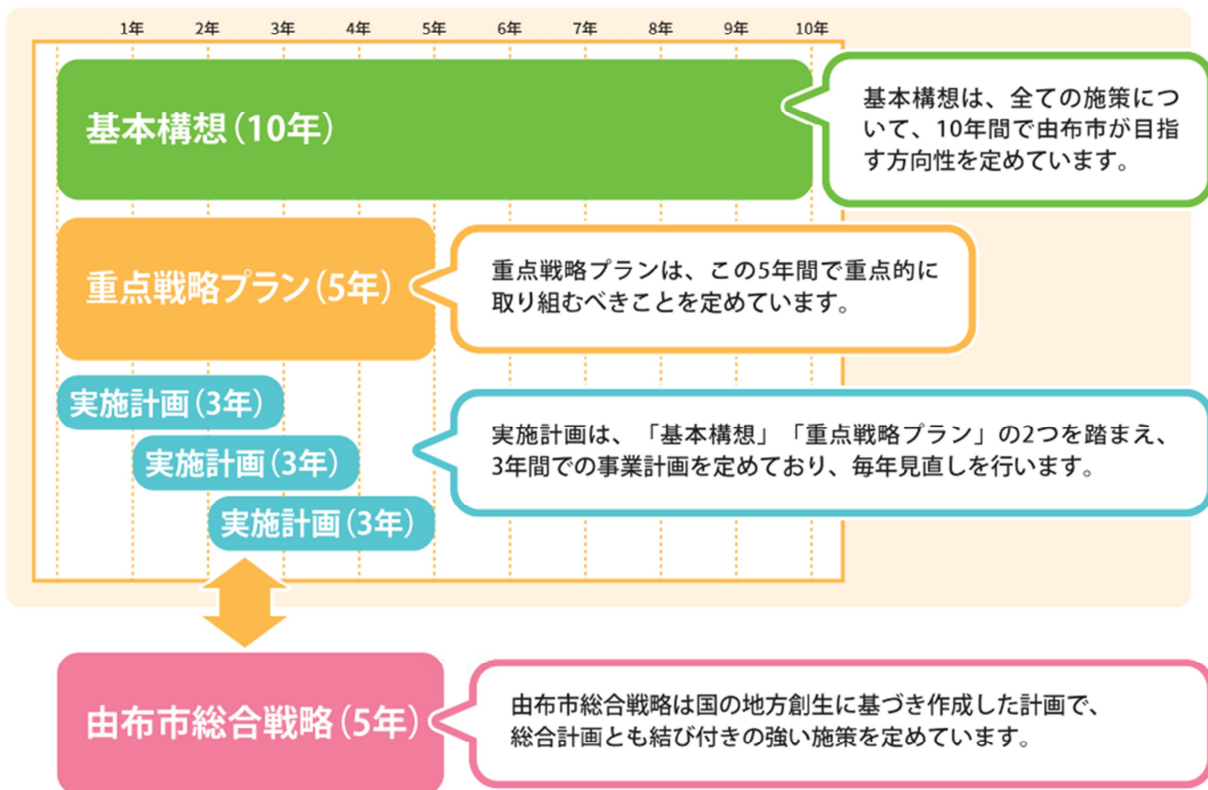
## 1. 総合計画の構成

総合計画は、下図のような構成となっています。

総合計画審議会では、重点戦略部分について評価し、進捗管理を行います。

### ■ 第二次由布市総合計画の構成

総合計画は、以下の3つの内容で構成されています。



## 2.重点戦略プランの13のプロジェクト

重点戦略プランには13のプロジェクトがあります。

総合計画審議会では、プロジェクトごとに評価をして、進捗管理を行います。

### 重点戦略プラン1～13



なお、13の重点戦略プランには、45の事業がぶら下がっており、事業別に庁内で事務事業評価等の進捗管理を行なっています。

## 第二次総合計画(基本構想)と重点戦略プラン(後期)の関連性

基本構想	プラン名	取組名(45事業)
みんなで進める！ 持続可能なまちづくり	プラン1 地域防災力強化プロジェクト	自主防災組織活性化推進事業
		地域防災リーダー(防災士)育成事業
		防災訓練実施推進事業
		防災教育推進事業
		防災情報告知システム整備事業
		消防団活動推進事業
	プラン2 みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	コミュニティバスの運行に合わせたイベントの開催を行う等の事業実施
		新たな公共交通モードの導入等利便性向上・合理化を進める
		コミバス乗車利用者数の一定水準向上
	プラン3 “市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	移動支援に関して、他分野との連携や補完を行う
		地域コミュニティ形成促進事業
		地域ビジョンの作成・実現事業
		いろいろな団体とやってみよう！交流・連携事業
一人ひとりの力を活かせるまちづくり	プラン4 地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	健康マイレージ対象拡大事業、応募者数増加
		地域活動の支援
		各機関との連携
人や文化を育む まちづくり	プラン5 子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	子育てと仕事を両立できる環境づくり事業
		子どもの居場所づくり事業
		地域子育て支援事業
	プラン6 『由布の学び』創造プロジェクト	地域と協働した学校づくり推進事業
		郷土学習の推進事業
		地域・家庭の教育力向上事業
経済の循環から 地域が潤うまちづくり	プラン7 食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	由布市産食材PR事業
		学校給食地産地消拡大事業
		食農教育推進事業
	プラン8 次世代につなげよう、持続可能な仕事づくりプロジェクト	移住就労者受入促進事業
		「農ある暮らし」仕事づくり事業
		由布市継業支援事業
		人材確保・育成支援事業
	プラン9 滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	観光受入環境基盤整備の取り組み
		観光情報発信の確立及び一元化の取り組み
豊かな環境の中で 快適な暮らしが 実感できるまちづくり	プラン10 民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	観光人材育成の取り組み
		第二次由布市観光基本計画の策定
		水環境創出モデル事業
地域を知り、 表現するまちづくり	プラン11 由布ならではの移住・定住プロジェクト	水環境創出モデル事業
		おおいとうつくし作戦推進事業
		SDGsに基づく持続可能な社会形成事業
	プラン12 地域プロモーション推進プロジェクト	定住及び移住推進事業/関係人口創出事業
		空き家利用による移住・定住化事業
		移住者受け入れ整備事業
	プラン13 ゆふツーリズム推進プロジェクト	地域の魅力の再発見・共有
		戦略的プロモーションの基盤整備
		戦略的プロモーションの試行
		ツーリズムの企画、実施、広報、評価
		ツーリズムに関する調査
		市民の地域表現力の向上

### 3.審議会等日程

本年度の評価検証については、下記のとおり実施しました。

日 程	項 目	内 容
令和7年5月21日	総務課より 各課へ「事務事業事後評価表」作成 依頼	各課において事業内容、目標 の達成率、自己評価等を作成
6月24日 6月26日	事務事業評価各課ヒアリング	総務課長、総合政策課長、 財政課長がヒアリングをして 庁内評価を行う
6月25日	第1回総合計画審議会	総合計画の内容 審議会の役割、 年間スケジュールについて
8月5日	総合政策課より 各課に対し「令和8年度当初予算概 算要求」説明会開催	事業内容、目標の達成率 前年度の審議会意見等を踏ま えた事業の進捗等をまとめる
11月10日	第3回総合計画審議会	各事業の実績概要について 審議会へ説明
11月10日～1月上旬	審議会委員が評価表を作成	評価資料の内容を鑑み、 重点戦略の13のプロジェクト について評価を行う
1月上旬～	総合政策課にて評価表集約	
令和8年2月19日	第5回総合計画審議会	集約した評価表（点数及び意 見）を審議会委員で共有・協 議を行い、最終的な評価結果 をまとめる。

---

## 4.評価方法

### ■評価内訳

・総合計画の評価方法は、『外部評価』、『内部評価』、『客観的指標』に分かれています。

- 1.『外部評価』・・・①市民意識調査（政策の重要度）  
②市民意識調査（政策の充足度）  
③**総合計画審議会委員評価**  
☞審議委員さんの評価はここに反映
- 2.『内部評価』・・・④市役所庁内で行われる事務事業評価
- 3.『客観的指標』・・・⑤政策の目標値などの達成率

上記の①～⑤を総合して、総合評価を算出して評価を行います。

## 5.総合計画審議会委員評価の視点について

### ■評価の視点

総合計画審議会委員さんが、13の重点戦略プランを評価するにあたっては、下表の視点に留意しつつ評価をします。

項目		評価の視点
妥当性	行政が関与すべきか	この事業を市が行わなければならないのか 税金を投入して行うべき事業か
	住民ニーズは高いか	住民に求められている事業であるか 社会情勢が変化し、事業の必要性が低下していないか
	目的・対象は妥当か	事業の対象・目的は適切か 事業の対象・目的に改善の余地はないか
有効性	事業の効果があるか	事業の目的が効果的に達成されているか 廃止・休止した場合、住民生活に多大な影響があるか
	成果向上の可能性	成果を向上させる余地(必要)があるか 成果向上が期待できない原因は何か
	長期計画への貢献度	事務事業の目的が、市の政策体系に結びついているか 政策目標実現のため、確実に貢献しているか
効率性	手段は最適か	目的達成のために、他に効率的な方法がないか 類似事業との統廃合の余地はないか
	低コスト・効率化	成果を下げずに、事業費を削減できないか 事業費を削減した場合の影響の有無と問題解決はどうか
	受益者負担は適切か	受益者に対して、適切な負担金を徴収しているか 住民間に不公平感がないか
地域性	市内へ適切に対応しているか	住民に対して制度周知・説明対応が行われているか
	地域状況を把握しているか	地域実情に応じた対応は適切か
協働性	政策間連携が図られているか	行政内部での政策間連携が調整されているか
	市民との協働が図られているか	市民との協働について適切か

■令和6年度事業評価の各評価指標の区分①（25点満点）

①-1 R4年度までの市民意識調査(施策の重要度)

「市民意識調査」(直近)結果での、該当項目に係る「重要度」「充足度」に対し平均値(四捨五入)

評価区分	重要度	点数
A	重要	5点
B	やや重要	4点
C	あまり重要でない	2点
D	重要でない	1点
	分からない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合14%

①-2 R6年度からの市民意識調査(施策の重要度)

【注記】R6年度から下記5段階評価とした。

評価区分	重要度	点数
A	とても重要	5点
B	重要	4点
C	どちらとも言えない	3点
D	あまり重要でない	2点
E	重要でない	1点
	分からない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合7%

②-1 R4年度までの市民意識調査市民意識調査(取り組みの充足度)

評価区分	充足度	点数
A	充分	5点
B	やや充分	4点
C	やや不充分	2点
D	不充分	1点
	分からない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合25%

②-2 R6年度からの市民意識調査結果(取り組みの充足度)

評価区分	充足度	点数
A	満足	5点
B	やや満足	4点
C	どちでとも言えない	3点
D	やや不満	2点
E	不満	1点
	分からない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合17%

③審議会委員 評点表  
審議会委員の評点の平均点

評価	評価内容	点数
A	事業・取組が十分に達成されている	5点
B	事業・取組がかなり達成されている	4点
C	事業・取組が概ね達成されている	3点
D	事業・取組があまり達成されていない	2点
E	事業・取組が達成されていない	1点

④庁内事務事業評価

「事務事業評価調書」に記載されている2次評価結果により

評価	評価内容	点数
A	継続して事業実施	5点
B	見直して事業実施	4点
C	休止	3点
D	終了	2点
E	廃止	1点

⑤客観指標結果 評点表

「事務事業評価調書」に記載されている成果指標1つに対し指標が2つ以上ある場合は、それぞれに点数を付し、平均点(四捨五入)で換算する。

評価	達成率	評価内容	点数
A	90%以上	目標が十分に達成されている	5点
B	60%~90%未満	目標がかなり達成されている	4点
C	30%~60%未満	目標が概ね達成されている	3点
D	10%~30%未満	目標があまり達成されていない	2点
E	0%~10%未満	目標が達成されていない	1点

⑥総合評価

①~⑤合計

総合評価	評価内容	合計点
A	計画が十分に達成されている	21点以上
B	計画がかなり達成されている	16~20点
C	計画が概ね達成されている	11~15点
D	計画があまり達成されていない	6~10点
E	計画が達成されていない	1~5点

■令和6年度事業評価の各評価指標の区分②（庁内事務事業評価を除く20点満点）

①-1 R4年度までの市民意識調査（施策の重要度）

「市民意識調査」（直近）結果での、該当項目に係る「重要度」「充足度」に対し平均値（四捨五入）

評価区分	重要度	点数
A	重要	5点
B	やや重要	4点
C	あまり重要でない	2点
D	重要でない	1点
	わからない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合14%

①-2 R6年度からの市民意識調査（施策の重要度）

【注記】R6年度から下記5段階評価とした。

評価区分	重要度	点数
A	とても重要	5点
B	重要	4点
C	どちらとも言えない	3点
D	あまり重要でない	2点
E	重要でない	1点
	わからない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合7%

②-1 R4年度までの市民意識調査市民意識調査（取り組みの充足度）

評価区分	充足度	点数
A	充分	5点
B	やや充分	4点
C	やや不充分	2点
D	不充分	1点
	わからない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合25%

②-2 R6年度からの市民意識調査結果（取り組みの充足度）

評価区分	充足度	点数
A	満足	5点
B	やや満足	4点
C	どちらとも言えない	3点
D	やや不満	2点
E	不満	1点
	わからない	算定除外

☞最も回答が多い  
☞回答割合17%

③審議会委員 評点表

審議会委員の評点の平均点

評価	評価内容	点数
A	事業・取組が十分に達成されている	5点
B	事業・取組がかなり達成されている	4点
C	事業・取組が概ね達成されている	3点
D	事業・取組があまり達成されていない	2点
E	事業・取組が達成されていない	1点

⑤客観指標結果 評点表

「事務事業評価調書」に記載されている成果指標1つに対し

指標が2つ以上ある場合は、それぞれに点数を付し、平均点（四捨五入）で換算する。

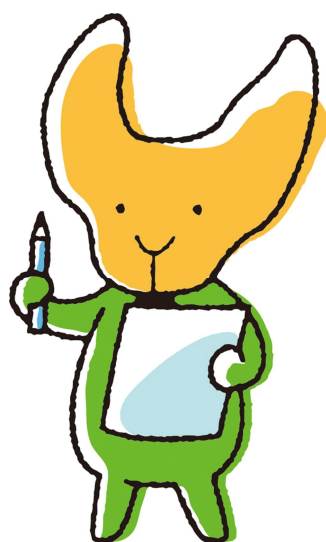
評価	達成率	評価内容	点数
A	90%以上	目標が十分に達成されている	5点
B	60%～90%未満	目標がかなり達成されている	4点
C	30%～60%未満	目標が概ね達成されている	3点
D	10%～30%未満	目標があまり達成されていない	2点
E	0%～10%未満	目標が達成されていない	1点

⑥総合評価（庁内評価抜き）

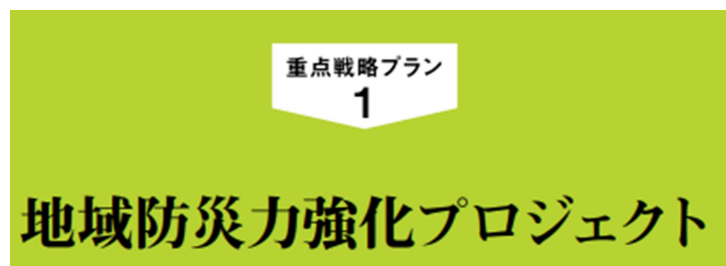
①②③⑤合計（20点満点）

総合評価	評価内容	合計点
A	計画が十分に達成されている	17～20点
B	計画がかなり達成されている	13～16点
C	計画が概ね達成されている	9～12点
D	計画があまり達成されていない	5～8点
E	計画が達成されていない	1～4点

令和6年度実施事業  
総合計画・重点戦略プラン  
13のプロジェクトの評価



## II 総合計画 1 3 のプロジェクトの評価内容について



### プロジェクト 1 の概要について

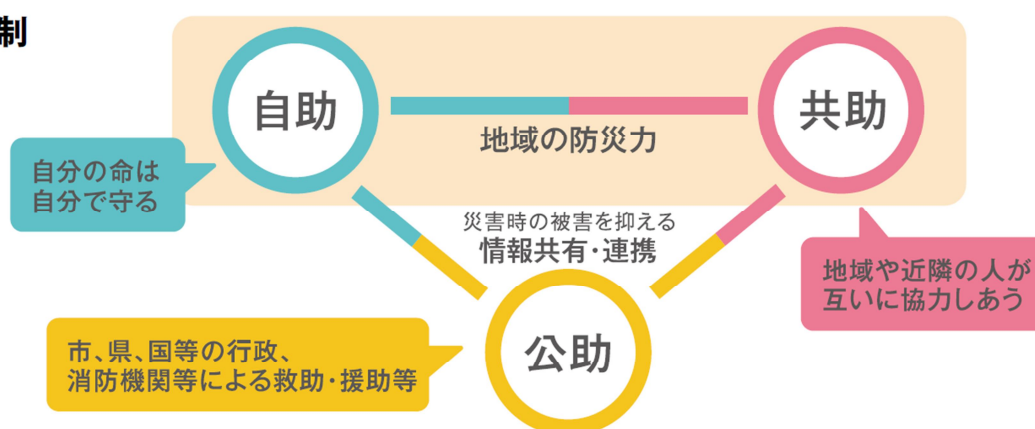
地域防災強化プロジェクトは、①自主防災組織の設立・育成、②消防団活動に関するものです。

由布市で発生する災害には、河川のはん濫、浸水等の風水害、土石流や地すべり等の土砂災害、南海トラフ巨大地震等の地震災害、火山災害、火災や危険物災害が想定されます。ひとたび大規模な災害が発生した場合、市や県、国の対応（公助）だけでは限界があり、早期に実効性のある対策をとることが難しい場合も考えられます。

被害の拡大を防ぐため公助・共助・自助の理念のもと地域の防災力の向上を目指します。

事業内容としては、自主防災組織・消防団活動費、防火水槽等の消防設備費用の補助金などが主なものとなります。

### ■ 推進体制



# 地域防災力強化プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン (前期)6-7頁 (後期)6-7頁

## 1.重点事業

(防災危機管理)課

事業名	地域防災推進事業(重点・総合)
決算額	1,8375千円(市費:1,837千円)
【主な取組】	自主防災組織の設立・育成を推進、併せて防災士配置自治区を増やすよう、講習会等を開催。

(消防本部総務)課

事業名	非常備消防活動推進事業(総合)
決算額	110,187千円(市費:65,808千円)
【主な取組】	消防団活動(火災等の災害出動や、定期訓練等)を実施。R6年度中に車両更新3台



(各地域振興課)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の設立の啓発・防災士の資格取得促進に係る啓発</li> <li>・各地域消防団の連絡調整及び地域消防団活動の支援/資機材整備等の集約等</li> <li>・各自治区からの防災訓練要望に関し、実施に向けた地元関係者・地元消防団・関係機関との調整</li> </ul>
--

## 2.その他の事業

(総務)課

事業名	防犯体制確立事業(総合)
決算額	3,906千円(市費:3,582千円)
【主な取組】	少年補導員の活動や自治区防犯灯設置補助金の交付等を実施 挟間:5件 庄内:4件 湯布院:6件 特殊詐欺等防止機能付電話機購入補助金事業の実施 91台

防災士推移(各年度末時点)

年度	総数
R1	380名
R2	392名
R3	411名
R4	380名
R5	391名
R6	395名

プロジェクト1 R6 全体達成率A:112.1%

## 3.成果指標

指標名	基準値(H30)	目標値(R7)	実績値	目標達成率	対象事業名	担当課	関係課	
自主防災組織数	54組織	65組織	R4	57	87.7%	地域防災推進事業	防災危機管理課	地域振興課 消防本部
			R5	53	81.5%			
			R6	57	87.7%			
防災士配置自治区数	98地区	120地区	R4	105	87.5%			
			R5	106	88.3%			
			R6	110	91.7%			
防災訓練・研修回数(自治区)	44回	65回	R4	17	26.2%			
			R5	16	24.6%			
			R6	15	23.1%			
防災教育回数	10回	12回	R4	19	158.3%			
			R5	22	183.3%			
			R6	32	266.7%			
消防団訓練研修回数	8回	12回	R4	9	75.0%	非常備消防活動推進事業	消防本部	地域振興課
			R5	10	83.3%			
			R6	13	108.3%			
消防団員充足率	95.5%	95.5%	R4	88.4%	92.6%			
			R5	87.2%	91.3%			
			R6	90.6%	94.9%			

プロジェクト1の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
	事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	32点	47点	54点	56点	55点	54点	55点	55点	<b>55点</b>
審議会評点 (平均点)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	4点 (3.6)	4点 (3.7)	4点 (3.7)	4点 (3.6)	4点 (3.7)	4点 (3.7)	<b>4点 (3.7)</b>

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問10「災害等の対応 防災対応」	R6: 平均値 4.17→ R4: 平均値 4.46 (4.15) R1: 平均値 4.66 (4.31)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問10「災害等の対応 防災対応」	R6: 平均値 3.40→ R4: 平均値 3.49 (3.21) R1: 平均値 2.97 (2.86)
③審議会評価	<b>4点</b>	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価2事業	昨年度評価(4.5)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 112.1%	A 昨年度達成率 92.1%
⑥総合評価	<b>21点</b>	<b>A</b> 計画が十分に達成されている	A 昨年度総合評価(21点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問10「災害等の対応 防災対応」	R6: 平均値 4.17→ R4: 平均値 4.46 (4.15) R1: 平均値 4.66 (4.31)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問10「災害等の対応 防災対応」	R6: 平均値 3.40→ R4: 平均値 3.49 (3.21) R1: 平均値 2.97 (2.86)
③審議会評価	4点	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 112.1%	A 昨年度達成率 92.1%
⑥総合評価	<b>16点</b>	<b>B</b> 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト 1 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 地域防災推進事業関連

1. 目標達成率は全体として向上しており、自主防災組織数や防災士配置自治区数の増加は評価できる。
2. 災害対応では、自助・共助・公助の役割分担を踏まえた体制づくりが重要であり、特に高齢化・過疎化を見据えた地域防災力の強化が必要。
3. 防災教育は進んでいる一方で、自主防災組織の設立数や防災訓練・研修回数の伸びが十分でなく、取組強化が求められる。
4. 防災士の積極的な活用（未組織地区の設立支援、訓練指導等）と活動強化、あわせて女性防災士の周知・参画促進が望まれる。
5. 被災後の復旧を見据え、人材・重機オペレーター不足、資機材、水・電源などライフライン確保への備えについて行政の継続的な対応が必要。
6. 防災情報のデジタル化と情報共有体制の整備を推進すべき。

#### ② 非常備消防活動推進事業関連

1. 消防団員数や充足率は改善傾向にあり、出動報酬の増額などの施策効果も含めて成果として評価できる。今後も訓練の充実と実行力ある活動の継続が求められる。
2. 団員の「実働率」に課題があり、幽霊団員対策や、活動実態に見合った評価・処遇（減俸・退団対応の検討を含む）など、実働重視の体制づくりが必要。
3. 行事や点検のスリム化など活動の効率化を進め、団員の過度な負担を軽減するなど、時代に合った組織・制度への見直しが必要。
4. 若い世代の加入促進には、インセンティブだけでなく負担軽減や共感できる仕組みづくりが重要であり、協力事業所への優遇やジュニア消防団など将来を見据えた育成策の検討が望まれる。
5. 消防水利（防火水槽、水路・河川水の活用等）の整備や見直し、市民参加型・実効

性の高い訓練や活動の導入を進めるべき。

---

## 委員質疑と回答

### ①地域防災推進事業関連

- 防災訓練・研修回数（自治区）について、計画上の目標値は、65回、H30の基準値は、44回ですが、近年の回数は、20回未満です。基準値を近年大きく下回っている理由は何でしょうか？

☞H30の基準値は、H28発災の熊本・大分地震を受けて、市や自治区が盛んに防災訓練や研修を行った時期となっています。その後、ある程度多くの自治区を一巡しているため、現状の開催回数になっていると思われませんが、防災意識の向上のため、継続した取り組みが重要と考えます。

### ②非常備消防活動推進事業関連

- 消防団の勧誘について、市はどのような取り組みをしているのでしょうか。
- 消防団員が30人弱、増加したのは大きな成果。出勤報酬の増額と関係があれば加筆してください。

☞勧誘については、成人式や、地域の祭り・イベントでの啓発活動、各種広報媒体を使って勧誘しております。また、各地域の団員が直接勧誘を行う際など、報酬の増額は、勧誘材料に一定程度なっていると思われます。

## 評価まとめ

プロジェクト1については、目標達成率・総合評価ともに昨年度同様、Aランクとなりました。

防災や消防団活動の取り組みが評価されてる結果といえますが、防災・消防団活動ともに、活動のための人的物的資源の不足も懸念されます。特に、審議会委員の意見で指摘されているように、今後の消防団員確保、現役の団員の負担軽減の観点から、活動内容や組織の在り方などの見直しが求められます。

## 委員個別意見

### ①地域防災推進事業関連

- 目標達成率の数値が上昇しており成果が出ていると思います。とくに自習防災組織数および防災士配置自治区数の増加は評価できると思います。
- いつ起きるか分からない災害に、自助、共助、公助、各々の役割を果たすことが大切だと思います。
- 防災教育回数をはじめ実績値は上がっているが、自主防災組織数や防災訓練・研修回数など数値が伸びていないものも見られる。資格を取得した防災士を未組織地区への設立アドバイザーや、既存組織の訓練指導役として積極的に登用・活用するための仕組みを構築、強化していただければと思う。
- 防災士の活動強化に期待します。
- 過疎高齢社会の中で、自助、共助の取り組みは重要であるが、被災時の公助の取り組みも不可欠。結節業従事者の減少、重機オペレーター不足、重機そのものの附則など、復旧に向けた課題は山積。ライフラインとしての水の確保、電源の確保など、あらゆる状況を想定しながら行政として地道に取り組む必要があるのではないか
- 高齢化が進む中、地域の自主防災組織が重要になってくるので今後も目標達成に取り組んで欲しい。女性防災士の方をもう少し周知してより広い参加を呼び掛けて欲しい。

- 防災情報のデジタル化と共有は急務として進めて欲しい。

## ②非常備消防活動推進事業関連

- 消防団に所属していても、参加しない人もいる。定数を確保するというより、実働できる人、実働数が大切であり、必要である。市や団の限られた財源から報酬が支払われていることを鑑みると、報酬に見合わない団員は退団げ減俸といった対応も検討してみてはどうか？
- 消防団員の活動は、一部の方々に限定されており、幽霊団員も多いと思われる。また、市政のパフォーマンスとしか思えないような行事も多く感じる。他の市町村では、本点検のスリム化も進んでいるので、効率的で有効な活動を限定し、団員の不要な負担を減らすようにしないと団員の減少につながると思う。時代に合わせた組織変革をしてほしい。
- これまでの諸先輩の活動には、敬意を感じているが、今の若い世代が共感できる体制・制度化を進めなければ、団員の若返りは進まないと思う。インセンティブを上げるという話ではなく、負担そのものが課題と思う。
- 2つの指標とも数値が上昇し成果が出ています。消防団員が30人弱、増加したのは大きな成果でしょう。出動報酬の増額と関係があれば加筆してください。
- 一時的かもしれませんが消防団員の充足率が向上したことは高く評価したい。今後も訓練の充実と実行力ある消防団活動の為に尽力してほしい。
- 消防の活動には感謝している。ただ、消火用の水源（防火水槽を含む）など、地域の実情や声を聞きながら、水路や河川水の消防用水としての活用を可能とするような取り組みも必要。
- 消防団員の充足率が改善されたことは、団員確保に向けた市の施策や各団の努力が奏功したと思われます。ただし、目標値にはまだ届いていないので、充足率をさらに引き上げ、かつ安定的に維持するための継続的な対策をお願いします（入団へのインセンティブとして、消防団協力事業所への優遇措置の拡充など）。
- 消防団員が増加に転じたことは、とても良いことだと思います。今後の加入促進の方法については、以前、（おそらく大分合同）新聞で見たのですが、豊後大野市では小中学生を対象とした「ジュニア消防団」のようなものがあるそうです。ちょうど良いことに挾間町には消防学校があるので、由布市でも可能であれば同じよう

な団体を作って、この資源を活用して見学や何らかの体験等をさせてもらったりすれば、その小中学生が将来消防団に入ろうという気持ちになるかもしれませんし、そのレベルまで達しなかったとしても、「自助」の意識付けは出来るかもしれません。また、子どもから消防学校での体験等の話を聞いた親が、消防団に入る気運が高まるかもしれません。即効性のある話ではありませんので、とりあえず検討していただければと思います。

- 即効性のある訓練や市民を巻き込んだ活動を取り入れる取組みを検討願います。



## みんなで守り育てる 公共交通活性化 プロジェクト

### プロジェクト 2 の概要について

由布市においては、民間のバス路線があるのは一部の地域に限られることから、コミュニティバスを 31 路線設定（スクールバス 4 路線を含む）し、運行事業者へ委託しています。これらの委託料に加え、交通計画の策定、公共交通に関する法定会議の運営を行っています。

#### ■ 推進体制

#### 持続可能な公共交通の実現



行政：公共交通担当課のみでは実現できない目標も多いことから、庁内横断的に協議できる体制をつくる

市民・自治区等：まちづくり事業等を通じた公共交通の積極的な利活用と新たな交通モード導入に向けた検討

みんなで守り育てる  
公共交通活性化 プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン (前期)10-11頁 (後期)8-9頁

1.重点事業

( 総合政策 ) 課

事業名	地域公共交通事業(重点・総合)
決算額	56,706千円(市費:12,593千円)
【主な取組】	コミュニティバス運行を委託 地域公共交通網形成計画を策定・各種公共交通関連の会議の運営。乗車人数の少ないコースを順次デマンド運行へ移



地域公共交通  
活性化協議会  
(国・県・交通事業者等)



市民交通対策検討委員  
自治委員等関係団体  
公募委員

2-1.その他の事業

( 総務 ) 課

事業名	交通安全対策推進事業
決算額	4,190千円(市費:4,190千円)
【主な取組】	①高齢者の運転免許証自主返納促進のため、タクシーチケット10,000円分を交付。70歳以上の新規返納者(チケット交付) :累計:823件 R6年度末時点累計使用率:60.4% ②R6年度 交付件数 127件 交付枚数2,540枚 使用枚数 598枚 使用割合 23.5%

R6年度タクシーチケット交付者

年齢階層	人数	比率
70-74	11	8.7%
75-79	34	26.8%
80-84	36	28.3%
85-89	33	26.0%
90-94	13	10.2%
95-	0	0.0%
	127	100%

タクシーチケット使用割合等

年度	交付件数	交付枚数	使用枚数	使用割合
H30	112	2,240	1,603	71.6%
H31	117	2,340	1,657	70.8%
R2	115	2,300	1,405	61.1%
R3	119	2,380	1,539	64.7%
R4	126	2,520	1,898	75.3%
R5	107	2,140	1,249	58.4%
R6	127	2,540	598	23.5%
累計	823	16,460	9,949	60.4%

プロジェクト2  
R6全体達成率  
C: 42.5%→

3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5				
コミバスの運行に合わせたイベントの開催を行う等の事業実施	1回	10回	R4	0	0.0%	地域公共交通事業	総合政策課	防災安全課 教育総務課 地域振興課
			R5	0	0.0%			
			R6	0	0.0%			
コミュニティバス運行回数券の交付	0件	100件	R4	7	7.0%			
			R5	6	6.0%			
			R6	7	7.0%			
コミバス年間利用者数	39,356人	45,000人	R4	27,643	61.4%			
			R5	25,931	57.6%			
			R6	25,772	57.3%			
免許返納者へのタクシー補助券の交付	112件/年	120件/年	R4	126	105.0%	交通安全対策推進事業	総務課	総合政策課
			R5	107	89.2%			
			R6	127	105.8%			

プロジェクト2の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	25点	38点	49点	47点	50点	47点	45点	46点	<b>44点</b>
審議会評点 (平均点)	3点 (2.5)	3点 (2.5)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.0)	3点 (3.1)	<b>3点 (2.9)</b>

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問11『公共交通網の充実』	R6:平均値 4.09→ R4:平均値 4.10 (3.85) R1:平均値 4.51 (4.26)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問11『公共交通網の充実』	R6:平均値 2.51↓ R4:平均値 2.88 (2.96) R1:平均値 2.38 (2.80)
③審議会評価	<b>3点</b>	<b>C</b> 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	<b>5点(4.5)</b>	<b>A評価1事業 B評価1事業</b> ↓	昨年度評価(4.0)
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 42.5%	C 昨年度達成率 38.2%
⑥総合評価	<b>18点</b>	<b>B</b> 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(17点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問11『公共交通網の充実』	R6:平均値 4.09→ R4:平均値 4.10 (3.85) R1:平均値 4.51 (4.26)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問11『公共交通網の充実』	R6:平均値 2.51↓ R4:平均値 2.88 (2.96) R1:平均値 2.38 (2.80)
③審議会評価	3点	<b>C</b> 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 42.5%	C 昨年度達成率 38.2%
⑥総合評価	<b>13点</b>	<b>B</b> 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(13点)

## プロジェクト 2 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 地域公共交通事業関連

1. コミュニティバス利用促進策（イベント連動、回数券等）は実績が低く、原因分析と対策、指標や施策内容そのものの見直しが必要。イベントは土日祝が中心のため、臨時ダイヤ運用など実態に合った方法の検討が望まれる。
2. 利用者数は目標未達だが、デマンドタクシーへの切替や循環路線設定など、需要に応じた交通形態への転換は評価できる。今後は利便性向上と成果分析の明確化が必要。
3. 利用率向上が最大の課題であり、オンデマンド化の推進、ライドシェアや配車アプリなど新たな交通手段の導入検討を求める。
4. 高齢化・免許返納後の移動手段確保が重要課題であり、買い物・通院等の日常移動を支える持続可能な交通体系の構築が必要。
5. 公共交通は福祉・医療・健康づくり施策との連携を含めて再設計すべきで、地域特性（特に庄内地域や過疎地域）に応じた対策強化が求められる。
6. 既存の投入予算額や取り組みの枠組みでは解決できない状況があり、通信環境整備や運用体制強化も含めた総合的な見直しが必要。

### 委員質疑と回答

- 事業実績で「免許証返納者へのタクシー券・ユーバス回数券交付数」とひとまとめになっていますが、ユーバス回数券交付対象は免許証返納者ということでしょうか？ ユーバスとコミュニティバスは同じものでしょうか？

☞回数券については、免許返納時に希望者へ、1万円分のコミュニティバス又はタクシー回数券を交付するものとなっています。ユーバスとコミュニティバスについては、文脈にもよりますが、中高生向けダイヤ路線をスクールバス、その他の路線をコミュニティバスと呼び、これを合わせた愛称としてユーバスと言っています。

## 評価まとめ

プロジェクト2の評価点は、審議会・総合評価は前年通りでしたが、令和6年度実施の市民意識調査の結果では、充足度（満足度）が低下しているとともに、指標の目標値の達成状況は、40%代で低迷しています。主な要因としては、利用者数の減少ですが、コロナ禍後も復調しないため、構造的な課題であると考えられます。

移動の問題は、移動の目的（病院・サロン・買い物等）や、移動する方の健康状況（バス停まで歩けるかどうか等）によって、様々であることから、コミュニティバスのみでの対応は事実上困難と言えます。

令和7年度から、デマンドの路線を更に増やし、庄内地域で主要施設を循環するコースを設定するなどコミュニティバスの取り組みを進めていってありますが、福祉部門、商工部門など市役所内の様々な分野の施策を組み合わせることで適切に対応していくことが求められます。

## 委員個別意見

### ① 地域公共交通事業関連

- コミバスに合わせたイベント開催などのほぼ実績のない状況にある利用促進策については、利用実態に合っていない指標や施策の見直しが必要ではないかと思えます。
- 昨年度の意見にあるように、イベントと回数券の低実績について原因分析と対策が必要です。コミバスダイヤに合わせたイベント開催については、イベントは土日祝日に多く開催されると考察する。臨時ダイヤの運用を実施する方が有効なのは。実績がない指標でもあるので、指標項目自体が適正ではないのではないかと。
- 試行錯誤しながらもできる範囲での取り組みは達成されている。高齢化社会では、公共交通ありかたについては、もう少し検討の余地があるのでは。道路の整備、交通規制の緩和など環境を整備することで、高齢者の安心安全な自立を促せば、行政の負担も減少するのではと思います。情報の一貫性を求める。
- コミバス利用者数は目標に達していませんが、デマンドタクシーへの切り替えや

庄内地域での循環路線の設定など新たな取り組みが行われていることは評価出来る

- 利用率の改善が依然として最重要課題であるが、デマンド交通への移行など交通形態の切り替えは、利用者ニーズに対応し限られた財源のなかで効率化を図る具体的な対応策として評価できます。今後もデマンドタクシーへの切り替えを進めていただきながら、それに加え、ライドシェアや新交通手段の導入などより広範囲な検討を行っていただければと思います。
- 高齢者の免許返納後の対策に期待をします。
- デマンドタクシーについて、路線数と路線名の記載にとどまっています。各年度の状況を分析し、成果について記載することが望まれます。
- コミュニティバスのニーズが低下し利用者数が下げ止まりの状況では、今後オンデマンド化等の対応の中で持続可能な運用の検討が重要と考えられる。デマンドタクシーの利便性向上も今後大切になってくると考える。
- シンプルに予算不足を感じます。今後、高齢化に伴い、車の運転ができなくなる方も増えると思います。日常的な買い物ができるお店も少なくなってくるので、スーパーに行きたいことが増えると思われます。都市部であれば、Uberなどの配車アプリの活用や宅配サービス<sup>^</sup>の充実など、選択肢も多いです。ライドシェアの取り組みなど、非常に良い施策もあるので、通信手段の確保と体制強化を進めて高齢者が住みやすい地域にできたらいいなと思います。（このプロジェクトに限らず、市の施策）全体を通して、「市民が幸せに暮らせること」が一番大切だと思っています。市民一人ひとりの要望は千差万別なので、全体を見渡して対応するのは本当に難しいと思いますが、個人的には、「公共交通活性化」が大きな課題だと感じています。予算編成を大きく見直して、高齢者が車が無くても不便を感じない交通システムを構築することに、全力で取り組んでもらいたいと思っています。
- いろいろ試行されているが、従来の補助事業の枠では限界があるのではないかと感じる。ある意味、福祉行政との関連が津陽、利用者ニーズを適切に把握しながら、福祉、健康づくり、病院との連携を深めていく必要があると思う。
- 特に庄内地域の実情に合わせた施策に取り組んでもらいたい。

## “市民が主体!!” コミュニティ活性化 プロジェクト

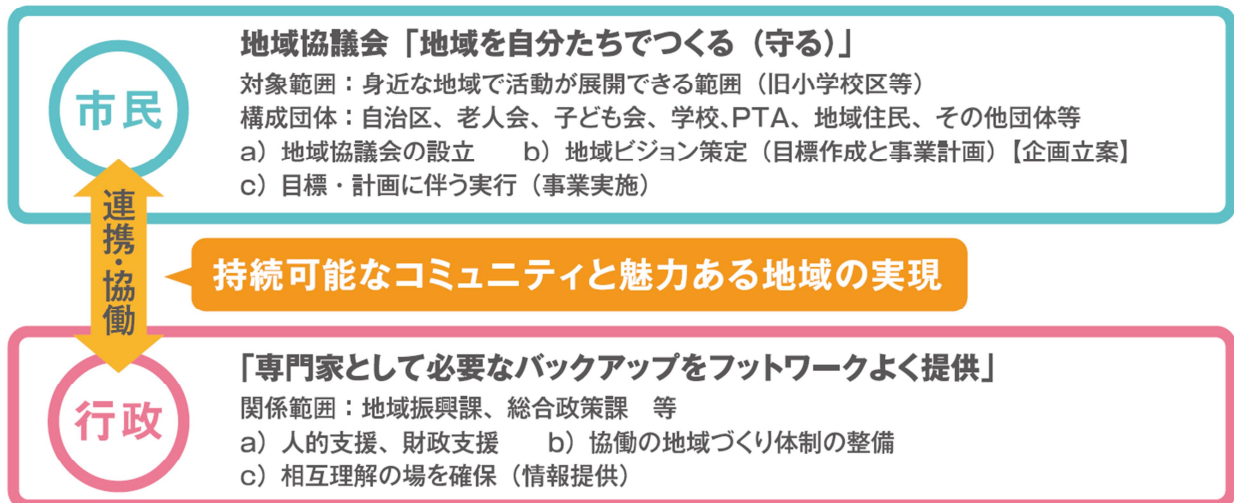
### プロジェクト 3 の概要について

少子高齢化が急速に進む時代において、地域のコミュニティ機能の低下が問題となっています。特に毎年のように起こる災害など、今後の地域内で交流はもとより助け合いの土壌は大変重要なものとなります。

このような状況に対応するため、このプロジェクトでは、市内各地域において、どのような地域にしていきたいかを描く「地域ビジョン」「地域振興計画」の策定、地域ビジョンを元にした「地域協議会（まちづくり協議会）」の設立を推進しています。

その結果として、地域が結束して現在、将来にわたって地域課題を共有し、その解決に向けて取り組むことを目指しています。

### ■ 推進体制



# “市民が主体!!” コミュニティ活性化プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）14-15頁（後期）10-11頁

## 1.重点事業

各地域振興課／総合政策課

事業名	由布コミュニティ (地域の底力再生)事業(重点・総合)
決算額	299千円(市費:299千円)

## 【主な取組】

地域課題を把握(R6年度は、ゆのひらんプロジェクト)するなど、地域計画を作成するため、組織化に向けた基盤整備をおこなった。今後は、地域まちづくり協議会の設立を見据えた取組みを実施。

(挾間・庄内・湯布院地域振興)課

事業名	地域コミュニティ形成促進事業 (重点・総合)
決算額	45,090千円(市費:29,606千円)

## 【主な取組】まちづくり協議会の活動費用

①谷むらづくり協議会、②阿蘇野・直山まちづくり協議会、③ゆのひらんプロジェクトの各種活動に対して活動・運営に係る費用を交付。この交付金を財源の一部とし、まち協主催のお祭り、特産品開発、見守り支援などを行った。地域おこし協力隊等の活動費も支出

連携

連携

(各地域振興課)

- ・由布コミュニティ事業:計画策定の際に現地代表者(自治区長)等との調整、会議支援/事業実施支援
- ・地域コミュニティ事業:協議会設立にむけた会議支援/事業実施支援
- ・小規模集落対策事業:事業実施時の助言、支援

連

## 2.その他の事業

(各地域振興)課

事業名	地域活力創造事業
決算額	9,579千円(市費:7,025千円)

## 【主な取組】

各地域内の団体が、自主的に活動を行うための支援制度

挾間 : 10団体

庄内 : 10団体

湯布院 : 5団体

※団体詳細は、プロジェクト末尾に記載

※参考) 県→地域 事業

事業名	ネットワークコミュニティ推進事業
決算額	県直接事業

## 【これまでの主な取組】

各まちづくり協議会の課題解決に向けて、アドバイザーを派遣。

県:中部振興局/コミュニティサポート大分

市:総合政策課/地域振興課

## 3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R6				
地域協議会設立	1地区	4地区	R4	4	100.0%	地域コミュニティ 形成促進事業	総合 政策課	地域 振興課
			R5	4	100.0%			
			R6	4	100.0%			
連携による 事業実施数	1件	4件	R4	4	100.0%	・由布コミュニティ(地 域の底力再生)事業 ・小規模集落等支援 対策事業 ・地域活力創造事業	総合 政策課	地域 振興課
			R5	4	100.0%			
			R6	4	100.0%			
連携による 地域ビジョン (計画)の作成	1地区	4地区	R4	4	100.0%	・由布コミュニティ(地 域の底力再生)事業 ・小規模集落等支援 対策事業 ・地域活力創造事業	総合 政策課	地域 振興課
			R5	4	100.0%			
			R6	4	100.0%			

プロジェクト3 R6全体達成率A:100.0% →

プロジェクト3の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	※30点	44点	51点	50点	51点	50点	57点	59点	60点
審議会評点 (平均点)	3点 (3.0)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	4点 (3.8)	4点 (3.9)	4点 (4.0)

評価項目集計(25点満点)※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問9『地域コミュニティ組織活動』	R6:平均値 3.64→ R4:平均値 3.86 (3.53) R1:平均値 4.04 (3.88)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問9『地域コミュニティ組織活動』	R6:平均値 3.25→ R4:平均値 3.28 (2.96) R1:平均値 3.33 (3.00)
③審議会評価	4点	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価1事業	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 100.0%	A 昨年度達成率 100.0%
⑥総合評価	21点	<b>A</b> 計画が十分に達成されている	A 昨年度総合評価(21点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問9『地域コミュニティ組織活動』	R6:平均値 3.64→ R4:平均値 3.86 (3.53) R1:平均値 4.04 (3.88)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問9『地域コミュニティ組織活動』	R6:平均値 3.25→ R4:平均値 3.28 (2.96) R1:平均値 3.33 (3.00)
③審議会評価	4点	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 100.0%	A 昨年度達成率 100.0%
⑥総合評価	16点	<b>B</b> 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト3 に対する審議会委員の意見について

---

### 委員意見要約

1. 3指標すべて達成しており、地域協議会の設立と各種事業の実施は計画どおり進んでいる点は評価できる。一方で活動のトーンダウンがないか継続的な検証が必要。
2. イベントやサロン実施だけでなく、地域コミュニティへの効果・影響の把握や成果の可視化を、次期計画では検討すべき。
3. 協議会の持続的運営に向けて、人材育成・担い手確保、伴走型支援の継続、デジタル活用による省力化・効率化支援が必要。
4. 財源や収支状況を含め、持続可能な運営体制の確立が重要であり、活動費以外の側面からの市の支援や協議会間の連携促進も求められる。
5. 行政の地域支援の関わり方への懸念や、他施策との予算配分バランスも含めた進め方の視点が必要。

---

### 委員質疑と回答

評価表での質疑等なし

## 評価まとめ

プロジェクト3の目標値については、現計画が掲げる目標値を達成したこともあり、昨年度に引き続きAランクとなっています。

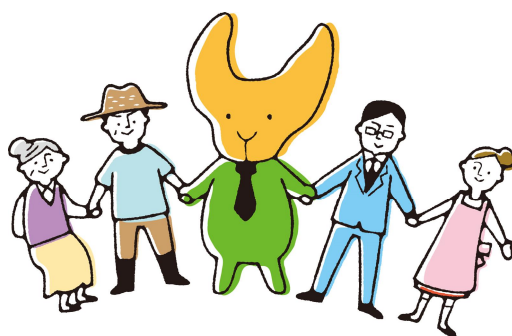
しかし、多くの委員が指摘するように、今後さらに高齢化、人口減少が進むことが確実な中で、これまでの成果や課題を踏まえ、今後どのような地域コミュニティづくりを目指していくべきかを中長期的に考えながら、地域リーダーや担い手の確保をはじめ、持続的に自主自立的な活動を行えるよう、各地域の実情に即した、市役所関係課による支援体制が引き続き必要であると言えます。

## 委員個別意見

### ①由布コミュニティ（地域の底力再生）事業・地域コミュニティ形成促進事業関連

- 3指標とも100%の達成率は素晴らしいと思います。ただしp.32に記載があるように「トーンダウン」傾向がないか、チェックが必要だと思います。まち協の活動内容としては、イベントやサロンの実施が多いようですが、大切なのは、それら活動によってコミュニティにどんな影響が出ているかだと思います。可視化するのはたいへんですが、次期計画ではその点も考慮してください。
- 計画どおりに4つの協議会が設立され、それぞれの協議会で「祭り」や「スポーツ大会」を始めとする地域活力創造事業が等の活動が計画どおりに行われている
- 資料にもあるように設立という初期目標に対する取り組みは達成されていると思います。今後、地域協議会が多様な担い手と財源を備え運営の持続性を獲得するためにも、伴走型支援の継続や高齢化を前提とした時短化・省力化を図るためのデジタル活用の支援が必要だと感じます。
- 活動の核になるような人材育成・確保の必要性を感じます。
- 取り組みは素晴らしいと思うし、地域支援員の皆さんや行政職員の中にも素晴らしい人材がいると思っている、一方で行政全体の支援という観点から見ると少しずつ地域から遠ざかっているのではと危惧している。

- 公共交通活性化プロジェクトに予算を多く回して、こちたの活動予算はもっと少なくした方が住んでいる住民にとっては良いのではと思いました。
- 地域存続の観点からも地域コミュニティの活性化は重要。各協議会の祭り等行事の日程がかぶらないよう調整し各行事の集客力を損なわないようにすることや、協議会での連携による地域振興策定など、市として活動費以外の支援も期待したい。
- 各団体の収支がどうなっているか気になる。財源を含めて持続可能な形での運営を今後も続けて欲しい。立ち上げから継続・運用が次年度以降求められる。



## 地域へ飛び出せ！ 健康マイレージ プロジェクト

### プロジェクト 4 の概要について

由布市では、『健康立市宣言』を行い、一人ひとりが個人・職域・地域において社会の健康を守り育む主体として貢献できる仕組みをつくり、『いつのまにか健康になっているコミュニティ』の実現に取り組むことを総合計画基本構想でうたっています。

このプロジェクトでは、健康づくりを行うにあたって、一人で行うのではなく、コミュニティの中で、身近な場所・多様な形で行えることを目指しています。

具体的には、シニアエクササイズ、健康サロン、公民館教室に参加したり、健康診査・がん検診を受けた場合などに、健康マイレージを由布市から付与し、マイレージが 10,000 ポイントになった方は、商工会の商品券を発行するというものです。

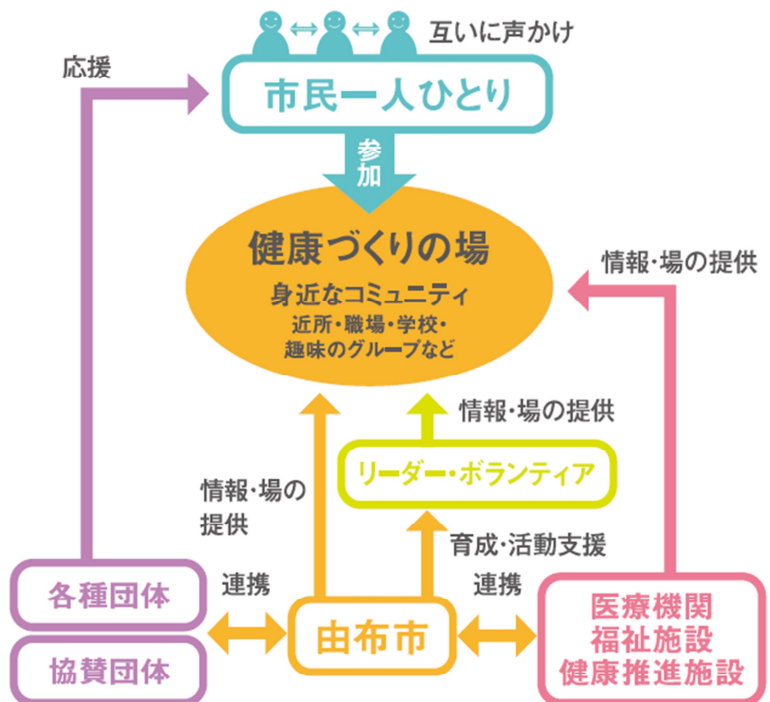
#### 推進体制

市民一人ひとりが、積極的にマイレージ事業に参加し、身近なコミュニティで声をかけあい、ともに健康づくりに取り組みます。また、コミュニティのなかにおいては、ボランティアやリーダーとして、身近な健康づくりを支える役割を担います。

医療機関、福祉施設、健康増進施設等は専門職として、個々に合った健康づくりの情報発信（場の紹介、知識・技術の提供）を市民に、より身近な場所で行うよう努めます。

各種団体と連携して身近な健康づくりのコミュニティ活動を支援します。

※このプロジェクトにおいて「コミュニティ」とは、自治区や職場、学校、趣味の仲間等、個人が所属している全てのグループとします。



# 地域へ飛び出せ！ 健康マイレージ プロジェクト

総合計画

重点戦略プラン（前期）18-19頁（後期）12-13頁

## 1.重点事業

（健康増進）課

事業名	健康立市推進事業(重点・総合)
決算額	8,943千円(市費:2,080千円)

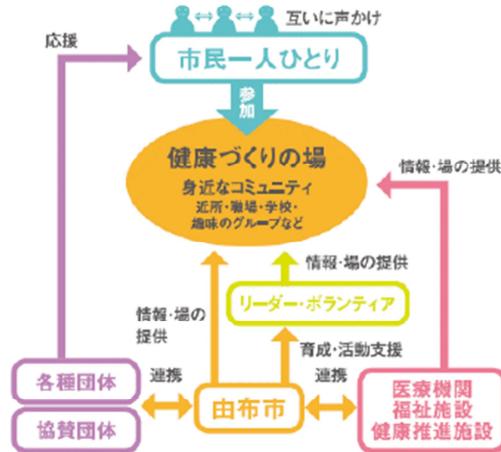
由布市商工会  
(目標到達者への商品券発行)

若い年齢層に対する健康づくりの意識向上に向けた取組として、若者向けマイレージ対象事業の拡大や健康マイレージのアプリ化に向けた検討を行った(県アプリへ移行予定)。また、事業所の健康支援事業を通じて若い年齢層の取込みを図りマイレージ参加者を増やす。

マイレージ事業の今後の変更スケジュール

【今後の予定】

- 令和7年度  
健康マイレージ事業に代わる新規事業の検討
- 令和8年度  
健康マイレージ最終年度  
県のあるとつく移行への勧奨、新規事業の準備



## 2.関連事業

現在の健康マイレージ対象(実績)事業の例

事業名	担当課
健康診査・がん検診事業	健康増進課
シニアエクササイズ各教室	健康増進課
各種健康サロン※	高齢者支援課

事業名	担当課
公民館教室	社会教育課
おもと大学	社会教育課

※各種健康サロン(例)  
いきいき元気塾・お茶の間サロン

注) 成果指標となる事業数は、  
上記(予定)事業の実施回数等  
に応じて確認

プロジェクト4 R6全体達成率B: 70.8% →

## 3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		対象事業名	担当課	関係課	
				目標 達成率				
健康マイレージ 対象事業数	35事業	50事業	R4	22	44.0%	健康立市 推進事業	健康 増進課	各担当課 ※健康 マイレージ 対象 (予定)事業
			R5	31	62.0%			
			R6	35	70.0%			
健康マイレージ 応募者数	972人	1,500人	R4	1,157	77.1%			
			R5	1,303	86.9%			
			R6	1,340	89.3%			
健康づくり リーダー派遣者数	366人	700人	R4	185	26.4%			
			R5	306	43.7%			
			R6	371	53.0%			

プロジェクト4の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
	事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	39点	53点	53点	54点	52点	50点	47点	47点	53点
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9)	4点 (3.5)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.1)	4点 (3.5)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問12『地域での健康づくり』	R6: 平均値 3.83↘ R4: 平均値 4.49 (4.31) R1: 平均値 4.38 (4.20)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問12『地域での健康づくり』	R6: 平均値 3.40↘ R4: 平均値 3.97 (3.79) R1: 平均値 3.61 (3.41)
③審議会評価	4点	B↑ 事業取組がかなり達成されている	C 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	4点(4.0)	B評価1事業	昨年度評価(4.0)
⑤客観指標結果	4点	B 目標値の平均達成率 70.8%	B 昨年度達成率 64.2%
⑥総合評価	19点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(18点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問12『地域での健康づくり』	R6: 平均値 3.83↘ R4: 平均値 4.49 (4.31) R1: 平均値 4.38 (4.20)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問12『地域での健康づくり』	R6: 平均値 3.40↘ R4: 平均値 3.97 (3.79) R1: 平均値 3.61 (3.41)
③審議会評価	4点	B↑ 事業取組がかなり達成されている	C 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	4点	B 目標値の平均達成率 70.8%	B 昨年度達成率 64.2%
⑥総合評価	15点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(14点)

## プロジェクト4 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 健康立市推進事業関連

1. これらの事業を通じて、健康寿命の延伸や医療費・健保財政への効果があったのかを、可能な範囲で検証・可視化してほしいと思う。
2. 若年層を含む幅広い世代への波及が課題であり、デジタル化や県アプリ「あるとっく」への移行・活用も含め、これまでの成果が失われないよう丁寧に進める必要があると思う。アプリ活用の有効性や費用対効果については慎重に見極める必要があると感じる。
3. 健康マイレージ事業の見直しにあたっては、ポイント付与型から習慣形成型への転換や、事業者連携、環境・防災活動（ごみ拾い、避難経路確認等で歩く）と組み合わせた展開も検討してはどうか。
4. お茶間サロンなどの取組は高齢者からの評価が高く、継続が望ましいが、参加継続のためには、移動手段として福祉バスなど交通施策との連携も重要だと思う。

### 委員質疑と回答

- 健康マイレージなどに関して、若年層への波及を課題と感じているようですが、今回行ったアプリへの移行検討のほか、若年層への啓発活動などの取り組みは、これまでどのようにしてきていますか？
  - ☞ 通常の広報手段である、市報、LINE、ゆふぽ（公式アプリ）での情報発信のほか、市内企業向け健康支援事業（健康に関する研修会など）を行う場合に、保健師等から、マイレージ制度などの広報を行っています。

## 評価まとめ

プロジェクト4については、目標値の達成率が70%代に向上し、審議会評価もCランクからBランクへ上がっています。

委員からは、これまでの取り組みに一定の評価がされているものの、マイレージ事業のアプリ化による高齢者のサポート体制、健康づくり事業全般における効果検証（健康寿命延伸や保険財政の改善効果などを含む）の必要性が指摘されており、適切な対応が望まれます。

## 委員個別意見

### ①健康立市推進事業関連

- 3指標とも着実に成果を上げています。健康マイレージづくりリーダー派遣者がどんな活動をしているかを記載すると、成果向上の理由がより明確になると思います。昨年度も書きましたが、これら事業を通して、健康寿命の延伸や健保財政へ効果があったのかがわかれば素晴らしいと思います。
- 健康マイレージ応募者数は年々増加し目標達成率も過去最高を更新。健康寿命延伸や健保財政への効果も期待できる。
- 目標には達していませんが、対象事業所数、応募者数、リーダー派遣者数のいずれも増加基調にある。
- 由布市の独自事業から県の「あるとつく」に移行することは、職員の業務負担を軽減する観点からも、有効であると思います。
- 健康づくりリーダーの派遣数が伸びていることはプロジェクトへの意識醸成が進んでいる証左だと思いますので、今後若年層を含めて幅広い層への波及へ取り組んで欲しい。
- 若者が参加できる形としてデジタル化等の検討を進める必要がある。今後のあるとつくへの移行を含めて、これまでの成果が失われないように慎重かつ丁寧な活動を求める
- 健康立市推進事業は、一定の成果と市民の健康意識の向上を実現していると思い

ます。費用対効果の面から健康マイレージ事業を終了し新規事業の検討を行うとこのことですので、県アプリの「あるとつく」の本格活用や市内事業者への導入支援、ポイント依存型から習慣形成型への移行、環境や防災と連携した健康施策（ゴミ拾いを兼ねたもの、避難経路を歩いて確認など）など幅広く検討していただきたい

- 特定の人たちのみの取組みになっているような気がします。
- より幅広い世代に事業の周知徹底を図るとともに、市民の意識向上に向けたポイントの還元を行ってほしい。
- 公共交通活性化プロジェクトに予算を多く回してほしいです。誰に向けた健康マイレージプロジェクトかということを考えると高齢者向けということになると思うので、アプリ化は誰も使わないシステムになってしまうので、不要ではないかと思います。予算の縮小で不要な事業の取り消しが良いかもです。
- お茶間サロンは、私の地域の高齢者（特に女性）から、高い評価を受けている。その女性は、健康温泉館の水中エクササイズや、ヨガ教室に三かしているが、交通の便が悪いため、バイクの運転ができなくなると三かできないと言っていた。福祉バスのサービスとの連携がひつようとなるのでは？



## 子どもたちを包み込む 支えあい・助けあい プロジェクト

### プロジェクト 5 の概要について

社会の宝であり、将来を担う子どもたちが健やかに育ち、笑顔を絶やさない地域をつくるためのプロジェクトです。

地域コミュニティの希薄化や、核家族が多数を占める現在、子育てに対する保護者の不安感、負担感は年々増大しています。また、共働き世帯の増加など、子どもたちが安心安全に過ごせる居場所づくりも課題となっています。

このような中、子どもの目線に立った子育て環境を構築するため、家庭、学校、地域、企業、行政が一体となった取り組みを進めていく必要があります。

プロジェクト 5 は、

**その 1. 地域子育て支援関連（補助事業や健診）**

**その 2. 子ども居場所づくり関連（保育所や放課後児童クラブ）**

に分かれています。

### ■ 推進体制

家庭(子ども)を中心とした支えあいの子育て環境を実現!



# 子どもたちを包み込む 支えあい・助けあいプロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）22-23頁（後期）14-15頁

## ①-1地域子育て支援

（子育て支援）課

事業名	地域子育て支援づくり事業(重点・総合)
決算額	46,955千円(市費:14,327千円)
【主な取組】	
①利用者支援事業、②ファミリーサポートセンター ③子育て援助活動事業 ④一時預かり事業を実施 各事業の詳細は別紙参照	

（子育て支援）課

事業名	子育てほっとクーポン事業
決算額	3,784千円(市費:1,703千円)
【主な取組】	
3歳未満の子どものいる家庭に子育て支援サービスを利用することができる県事業の「子育てほっとクーポン」を無料で交付。令和5年度からは、同趣旨の国の『出産・子育て応援給付金』が導入されたことから新規クーポンの発行は行っていない。	

利便性向

（健康増進）課

事業名	母子保健推進事業
決算額	32,566千円(市費:28,441千円)
【主な取組】	
①乳児健診:3~6カ月受診券利用 1.6歳児健診22回実施予定、3歳児健診22回実施予定 乳児後期相談会10回実施予定	
②集団支援:親子教室(運動編)6回実施予定 就学前教室7回実施予定 個別支援子育て相談会23回実施予定(子育て9回、言葉7回、運動7回)	

子育てほっとクーポン配布数

年度	枚数
R1	526枚
R2	520枚
R3	504枚
R4	527枚
R5	82枚
R6	50枚

## ②子どもの居場所づくり

（子育て支援）課

事業名	保育所活動推進事業(重点・総合)
決算額	36,391千円(市費:15,548千円)
【主な取組】	
保護者の就労や疾病等により、子どもを保育する事が出来ない家庭が、就学前児童を預けるための教育・保育環境を充実する取り組みを行った。	

（子育て支援）課

事業名	児童健全育成事業(重点・総合)
決算額	160,565千円(市費:54,395千円)
【主な取組】	
引き続き、放課後の主な居場所となる市内の児童クラブへの委託や保護者負担金の減免助成、児童クラブの施設整備も含めて児童の健全育成を	

（子育て支援）課

事業名	病児・病後児保育事業(重点・総合)
決算額	10,207千円(市費:3,945千円)
【主な取組】	
病院・保育所等の専用スペースで病児及び体調不良児の一時的な保育を実施した。	

（都市景観推進）課

事業名	都市公園等管理事業
決算額	10,753千円(市費:10,590千円)
【主な取組】	
自治区や清掃業者への委託も含め、施設が適切に利用できるよう維持管理を行った。 修繕については、公園施設長寿命化計画に基づき危険性や緊急性などを考慮し順次行った。	

公園の管理

（健康増進）課

事業名	5歳児健康診査事業
決算額	910千円(市費:575千円)
【主な取組】	
対象者271人中 受診者 264人 97.4% 施設巡回:市内14箇所 幼稚園・保育所 市外通園児・在宅児用集団1次:1会場 4回 地元医診察:市内2会場数 5回 専門医診察:市内3会場数 5回	

（健康増進）課

事業名	予防接種推進事業
決算額	143,764千円(市費:121,203千円)
【主な取組】	
結核(BCG):197人・二種混合:204人 ・四種混合:328人・五種混合:536人 ・麻疹風疹(MR):1期198人 2期244人 ・日本脳炎:947人・ヒブワクチン:253人 ・小児用肺炎球菌:784人・水痘:403人 ・B型肝炎:593人・ロタウイルス:524人 ・子宮頸がん:991人	

①-1 地域子育て支援 地域子育て支援づくり事業の詳細内訳

子育て支援課

地域子育て支援づくり事業 ①+②+③+④

① 利用者支援事業  
 妊娠届出時や出産前後に面談等を行い、情報提供や相談対応を行う。  
 ②～④の事業と併せた取り組み、保護者が育児によって心身ともに疲労した際などに、一時的な支援を受けられる体制を整えることができました。結果として、保護者の心理的・身体的負担の軽減につながり、安心して子育てに取り組める環境の整備に寄与しました。

③ ファミリーサポートセンター  
 幼児や小学生などの子どもを育てている保護者のうち、子育ての手助けを受けたい方（依頼会員）と、児童の預かりなど子育ての手助けを行いたい方（援助会員）との間で、相互に支え合う「相互援助活動」を実施しました。  
 この活動により、地域全体で子育てを支える体制の構築を図るとともに、安心して子育てができる環境づくりを推進しました。  
 また、相互援助活動の連絡および調整については、市内の社会福祉法人に委託し、地域における育児支援活動が円滑に行われるよう取り組みました。  
 (援助会員数 9人)  
 (利用会員数 76人)

② 地域子育て支援拠点事業  
 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。

④ 一時預かり事業  
 保育所等を利用していない家庭において、一時的に家庭での保育が困難となった場合に対応するため、「一時預かり事業（一般型）」を、市内の任意団体が運営する地域子育て支援拠点において実施しました。

プロジェクト5 R6全体達成率A: 118.2% →

3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標達成率	対象事業名	担当課
子どもの居場所づくり (児童館、放課後児童クラブ等の拠点)	20施設	22施設	R4	24	109.1%	児童健全育成事業	子育て支援課
			R5	24	109.1%		
			R6	24	109.1%		
保育所等 待機児童の数 (潜在的待機を含む)	104人	0人	R4	6	▲6人	保育所活動推進事業	
			R5	5	▲5人		
			R6	7	▲7人		
3歳未満児の 保育利用率	44.6%	48.6%	R4	45.6%	93.8%	保育所活動推進事業	
			R5	48.4%	99.6%		
			R6	49.4%	101.6%		
訪問・相談人数	130件	160件	R4	254	158.8%	地域子育て支援づくり事業	
			R5	238	148.8%		
			R6	230	143.8%		

プロジェクト5の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	36点	55点	57点	57点	60点	56点	60点	65点	63点
審議会評点 (平均点)	4点 (3.6)	4点 (3.6)	4点 (3.8)	4点 (3.8)	4点 (4.0)	4点 (3.7)	4点 (4.0)	4点 (4.3)	4点 (4.2)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問14『子育て支援活動』	R6: 平均値 4.27→ R4: 平均値 4.47 (4.09) R1: 平均値 4.51 (4.22)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問14『子育て支援活動』	R6: 平均値 3.41↘→ R4: 平均値 3.64 (3.23) R1: 平均値 3.21 (2.94)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価6事業	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 118.2%	A 昨年度達成率 119.2%
⑥総合評価	21点	A 計画が十分に達成されている	A 昨年度総合評価(21点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問14『子育て支援活動』	R6: 平均値 4.27→ R4: 平均値 4.47 (4.09) R1: 平均値 4.51 (4.22)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問14『子育て支援活動』	R6: 平均値 3.41↘→ R4: 平均値 3.64 (3.23) R1: 平均値 3.21 (2.94)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 118.2%	A 昨年度達成率 119.2%
⑥総合評価	16点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト5 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 地域子育て支援関連

1. 待機児童は低水準で推移し、保育所増設の効果は大きい。現水準の維持を期待したい。
2. 子育て支援は本市の強みであり、ニーズを的確に把握し継続してほしいと思う。
3. 相談・訪問事業は件数だけでなく、内容分析と施策見直しへの活用が必要だと思う。
4. 多様な家庭に対応するため、相談体制や支援メニューの充実強化が重要だと思う。
5. ファミリーサポートセンターの援助会員不足への対策や、子育てほっとクーポン終了後も支援が縮小しない工夫を望みたい。

#### ② 子どもの居場所づくり関連

1. 児童クラブ整備や待機児童ゼロ、相談体制の充実は本市の魅力であり、広報強化が必要だと思う。
2. 全体として施策は充実しており、地域ニーズに沿った、子どもの居場所機能の最適配置を進めてほしい。
3. 子どもの居場所づくりについては、市内地域差が大きい。人手不足地域では就労支援(働きたい親御さんの社会進出)の面からも取組強化が必要だと思う。
4. 預かり保育をしているが、土曜保育が無いために、共働き、土日に働くサービス業の方がこども園を選択している。幼稚園の利用者増加の課題はここにあるように感じる。
5. 児童クラブの支援員不足や運営・保育内容の課題への対応強化を望みたい。

## 委員質疑と回答

- 子育てほっとクーポン事業はなぜ終了するのでしょうか？  
☞平成27年度から県と市町村で事業を開始しているおおいた子育てほっとクーポンは、国の「出産・子育て応援給付金」の創設に伴い、重複施策等の観点から、令和5年度以降のおおいた子育てほっとクーポンの交付を終了しております（県より終了の通知あり）。発行済みのほっとクーポンは有効期限（3歳誕生日前日）まで利用できます。

## 評価まとめ

プロジェクト5については、昨年度同様に総合評価でA評価となっています。

多くの委員から現状の由布市の子育て施策に関してよい評価をいただいています  
が、同時に子育て施策に関するニーズの多様化、物価高騰による経済的な負担、子ども  
の居場所に関する市内地域間格差など、様々な需要や課題も指摘されています。

今後も、きめ細かな子育て施策の展開が望まれますが、市単独事業で行うことが難  
しい施策もあることから、他の自治体との連携、県・国レベルでの子育て支援策要望  
を行っていく必要があると思われま。

## 委員個別意見

### ①地域子育て支援関連

- 保育所待機児童数は1ケタと低水準を維持しており、保育所の増設が奏功して  
いる。特に挾間地域は大分県内では珍しく若い世代の流入が増加傾向にあること  
から、同水準を維持できる取組みを今後も期待したい。
- 子育て施策が充実している由布市。これからも継続して取り組んでください。
- 子育て支援は、由布市の看板施策である。智恵を絞り、しっかりニーズを把握しな  
がら継続してほしい。
- 主要な数値指標が目標を達成しており、子育て環境の充実が進んでいると思いま

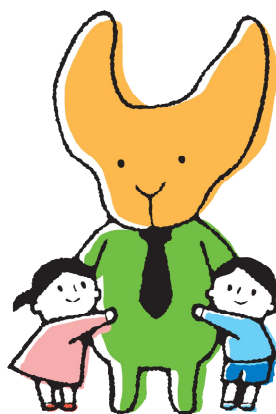
す。今後も、多様化する過程の孤立防止、相談の早期発見・早期支援に繋がるよう支援メニューの充実や相談体制（オンライン相談・多言語対応・専門職配置）の強化などを進めていただきたい。

- 成果指標の表には、①地域子育て支援関連と②子どもの居場所づくり関連の区分が示されていないので、次回からは明記してください。別ページの区分を見ないとわかりません。
- 「訪問・相談人数」が多いのはよいと思いますが、内容の活用も大切です。そこで相談内容を分析して、事業の見直しに役立てた例があれば記載してください。
- ファミリーサポートセンターについては、利用会員数に比べて援助会員数が少ないと感じました。大分県シルバー人材センター連合会では、シルバー人材センターが保育を行うための講習も行っていると思いますので、このような制度を活用して「預け先」を増やしてはいかがでしょうか？（現在委託している社会福祉法人とシルバー人材センターの2本立てになると、混乱するのかもしれませんが・・・）
- 成果指標が全体に向上していることは一定の評価が出来る。子育てほっとクーポン終了後の対応も気にかかるので、支援の幅を狭めない取り組みに期待したい。

## ②子どもの居場所づくり関連

- この点は、本市の魅力の一つですので、市内外に広報してください。
- 多くの放課後児童クラブが整備されていること、実質的な待機児童がないこと、子育て支援センターでの相談にも充分に対応できている
- 預かり保育をしているが、土曜保育が無いために、共働き、土日に働くサービス業の方がこども園を選択している。幼稚園の利用者増加の課題はここにあるように感じる。
- 現状市内の地域格差は非常に大きいため、地域性に考慮した子供の居場所づくりに取り組んで欲しい。湯布院地域では人手不足も深刻であり、働きたい親御さんの社会進出をお手伝いするという面でも放課後児童クラブや居場所づくりに積極的な取組を期待する。

- 児童クラブにおいては、支援員不足による運営の難しさや、保育内容の課題の声が聞かれるので、その点の対応も今後行っていただきたい。
- 概ね目標を達成しており、充実していると思う。これからも、地域ニーズに合った子どもの居場所の機能的な配置の最適化を進めていただくとともに、子育て支援の見える化等による、外部への魅力アピールの取り組みも進めていただきたい。



## 『由布の学び』 創造 プロジェクト

### プロジェクト6の概要について

全国的に人口減少、少子高齢が進むとともに、社会構造、社会問題、地域課題は年々多様化、複雑化、困難化をしています。

子どもたちが、今後このような社会で、個性を発揮し活躍していけるよう、学校はもちろん、地域の自然・ネットワークの中で様々な学びの機会をつくっていくことが重要となります。由布市を舞台とした『由布の学び』を通して、子どもたちが、地域に誇りを持ち、未来を担う人材になること、それを通してより輝く地域になることがプロジェクトの目的となります。

プロジェクト6は、

その1. 学校づくり関連事業（学校運営委員会など）

その2. 家庭・地域づくり／郷土学習関連事業（家庭教育支援講座、読み聞かせ等）

に分かれています。

#### ■ 推進体制



教育委員会・学校等：関係各機関による事業推進体制を確立し実践を行う。

家庭・地域等：家庭における教育力の向上及び地域人材等の支援による連携協働を行う。

# 『由布の学び』 創造 プロジェクト

総合計画

重点戦略プラン（前期）26-27頁（後期）16-17頁

## 1. 学校づくり関連事業

（学校教育）課

事業名	地域と協働する学校づくり推進事業 （重点・総合）
決算額	3,251千円（市費：3,251千円）
【主な取組】	学校運営協議会やPTAと、学校の最重点課題や地域課題の共有を行った。

（学校教育）課

事業名	教育相談体制充実事業（重点）
決算額	19,978千円（市費：16,491千円）
【主な取組】	「由布市子ども支援センター」に、スクールソーシャルワーカー、臨床心理士、就学相談員、教育支援センター「コスモス」を配置し、児童生徒、保護者及び教職員に対して専門的な支援を行った。挟間中学校に登校支援員を配置し、教室に入ることのできない生徒に対し支援を行った。

（学校教育）課

事業名	特別支援教育充実事業（重点）
決算額	69,429千円（市費：69,375千円）
【主な取組】	小中学校へ特別支援員等を配置し、障がいを持つ児童生徒に対する支援を行える体制を整えている。新しく、医療的ケアを必要とする児童生徒に対する看護師の派遣体制を構築した。

（学校教育）課

事業名	人材育成教育推進事業（重点）
決算額	29,309千円（市費：28,309千円）
【主な取組】	「校種間連携」「情報発信力の育成」「英語力の育成」を柱とした、体系的な資質・能力の育成を行った。

## 2. 家庭・地域づくり/郷土学習関連事業

（社会教育）課

事業名	地域協育推進事業（重点・総合）
決算額	11,165千円（市費：3,889千円）
【主な取組】	中学校区協育ネットワークを中心とし学校・家庭・地域がつながりあって子どもたちに関わる体制を整備し、様々な内容の学びの機会提供を行うとともに、放課後や休日に「ゆふの寺子屋」事業を市内全小学校区で実施し、地域全体で子どもたちの居場所と学びの機会の提供を行う。また、家庭教育講座や家庭教育サロンを実施する中で、子育て中の保護者同士のつながりづくりや、新たな視点・行動のきっかけづくりに努める。

（社会教育）課

事業名	文化財活用促進事業（重点・総合）
決算額	409千円（市費：409千円）
【主な取組】	・児童生徒の郷土理解と愛着を育むため、小学4年生から中学生を対象に「ゆふっ子検定」、由布高生を対象に「由布検定」を実施 ・活用計画策定2年目として、地域計画策定協議会を中心に、計画内容の検討や市民への意識調査を実施

（社会教育）課

事業名	読書活動推進事業（重点・総合）
決算額	386千円（市費：386千円）
【主な取組】	各図書館で定例の読み聞かせ会や講演会、ワークショップ等のイベントを実施した。また、子ども司書の育成を進めるとともに、新たな取り組みとして小学校の支援学級に対しバリアフリーセット団体貸出を行った。

プロジェクト6 R6全体達成率A : 91.1% ↑

3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
児童・生徒の 「地域活動への 意識調査」結果	小学/15.3% 中学/15.5%	小学:30% 中学:30%	小学	73.2%	244.0%	人材育成 教育推進事業	学校 教育課	
			中学	71.5%	238.3%			
不登校児童 ・生徒の出現率	小学/0.6% 中学/2.8%	小学:0.3% 中学:1.5% 以下	小学	2.1%	14.3%	教育相談体制 充実事業	学校 教育課	
			中学	6.8%	22.1%			
「由布の学び検定」 の実施	25人	80人	R4	38	47.5%	文化財活用 促進事業 (小・中学校 教育指導事業)	社会 教育課 (学校 教育課)	
			R5	48	60.0%			
			R6	37	46.3%			
1ヶ月に3冊以上 本を読む 児童・生徒の割合	小5/81.7% 中2/50.3%	小5:83.4% 中2:55.0%	小5	68.6%	82.3%	読書活動 推進事業		
			中2	40.8%	74.2%			
家庭教育支援 講座受講数	88人	135人	R4	116	85.9%	地域協育 推進事業		
			R5	102	75.6%			
			R6	102	75.6%			
地域人材 派遣数	3,383人	3,700人	R4	3,060	82.7%	地域協育 推進事業 (小・中学校 教育指導事業)		
			R5	2,860	77.3%			
			R6	3,218	87.0%			

■小学校地域活動：R4：57.5% → R5：65.8% → R6：73.2%

■中学校地域活動：R4：52.2% → R5：38.3% → R6：71.5%

■小学校不登校出現率：R4：1.1% → R5：1.4% → R6：2.1%

■中学校不登校出現率：R4：6.3% → R5：6.6% → R6：6.8%

☞次期計画では、専門的な相談・指導を受けた不登校児・生徒の割合を KPI にする予定

■由布の学び検定

上記の実績は、小中学校個人受検、由布高校の受検者の合計

このほか、小学校の団体受験者として

R4：359人 → R5：518人 → R6：612人 が受検している。

■小学校読書率：R4：79.1% → R5：72.1% → R6：68.6%

■中学校読書率：R4：59.1% → R5：43.4% → R6：40.8%

プロジェクト6の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	35点	55点	52点	55点	54点	53点	56点	56点	56点
審議会評点 (平均点)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	4点 (3.7)	4点 (3.7)	4点 (3.7)

評価項目集計(25点満点) ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問13『生涯における学び』	R6: 平均値 3.80→ R4: 平均値 4.10 (3.91) R1: 平均値 4.08 (3.94)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問13『生涯における学び』	R6: 平均値 3.19→ R4: 平均値 3.49 (3.31) R1: 平均値 3.13 (3.03)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(4.8)	A評価7事業 B評価1事業	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 91.1% ↑	B 昨年度達成率 83.5%
⑥総合評価	21点	A ↑ 計画が十分に達成されている	B 昨年度総合評価(20点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問13『生涯における学び』	R6: 平均値 3.80→ R4: 平均値 4.10 (3.91) R1: 平均値 4.08 (3.94)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問13『生涯における学び』	R6: 平均値 3.19→ R4: 平均値 3.49 (3.31) R1: 平均値 3.13 (3.03)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 91.1% ↑	B 昨年度達成率 83.5%
⑥総合評価	16点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(15点)

## プロジェクト6 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 学校づくり関連事業

1. 指標は上昇しているが、内容を精査するとまだ伸びしろがあると感じる。
2. 教育施策は数値だけでなく、児童生徒一人ひとりに寄り添う支援の継続が重要だと思う。
3. 不登校は出現率だけでなく、対応の質や復学率などの指標も用いるべきだと感じる。
4. PTA 廃止後の保護者会との協力体制づくりと、活動意義の再認識が必要だと思う。
5. 外部人材や専門職と連携し、多様な学びと支援体制の強化を進めてほしい。

#### ② 家庭・地域づくり/郷土学習関連事業

1. 読書指標は子どもだけでなく、大人の読書割合も成果指標に加えるべきだと感じる。
2. 由布の学び検定は低調だが団体受験を含めれば増加しており、全体は一定評価できる。
3. 郷土学習は地域理解や将来のUターン促進の面でも重要で、充実を期待したい。
4. 読書離れや交流減少に対応し、学年別計画や図書館・学校・家庭の連携強化が必要だと思う。
5. 親子バスツアー（企業見学等）など民間事業や自然分野も含め、官民連携拡大が有効だと思う。

### 委員質疑と回答

評価表での委員質疑なし

## 評価まとめ

プロジェクト6については、目標達成率が90%代に上昇（地域人材派遣数の上昇など）したため、総合評価もA評価に上昇しています。

しかし、委員からの指摘にもある通り、教育部門に関しては、数値だけでは評価できない点も多くあり、PTAの解散など、学校を取り巻く課題はまだまだ山積しており、今後も丁寧な対応が求められます。

家庭・地域づくり/郷土学習関連事業についても、現在の取り組みについて、更に広がりをもたせ、深化させることが重要と思われまます。

## 委員個別意見

### ①学校づくり関連事業

- 評価指標は上がっているのだが、各項目を見るとまだまだ伸びしろがあると感じた。関心度が向上している事は評価できる。PTA廃止を受けて今後の保護者会との円滑な協力体制の確立は必須である。人材育成教育として、ゲストティーチャーの活用をより積極的に行って欲しい
- PTA活動の有効性や意義を再認識する取組みを進める必要性を感じます。
- 教育関係事業を数値評価するのは簡単ではありません。今回は、「地域活動意識調査」が高率であったため、全体達成率が上がりましたが、冷静に見る必要を感じます。実績概要の市の対応状況は共感できる内容が多いので、児童生徒一人一人の状況に寄り添った施策を今後とも続けてください。
- 不登校児童については、社会的、世代的認識や対応の変化もあり、現在の数値になっているように感じる。所管課の所見にあるように、一人ひとりへの適切な対応をとれたかや、復学率等の指標を今後採用していくことに賛同する。
- 「地域活動への意識調査」の増加は学年年次の入れ替わりと推測され、「不登校児童・生徒の出現率」は評価になじまないとのことですので、この事業については評価の対象としませんでした

- コミュニティ・スクールの導入、不登校支援体制の強化、保護者会の立ち上げなど一定の成果を挙げていると思いますが、不登校の増加、PTA 廃止に伴う家庭・地域との関係構築の再設計、学校相談体制の質の担保など、構造的な課題が明確になっていると考えられます。
- 教育支援センター、オンライン学習等の複線的な学びの場を制度として位置づけ、学校・支援員・SSW・心理専門職が連携したケース会議の定着を促し、加えて、保護者会の体制を早期に整備し、地域連携と家庭支援の土台を強化していただきたい。

## ②家庭・地域づくり/郷土学習関連事業

- 達成率が上昇傾向にあります。が、「1ヶ月に3冊以上本を読む」に関して、子どもだけを対象とするのにはやや疑問を感じます。由布市の大人たちが日頃から本を読んで、子どもたちに見せることが有効だと思います。社会教育の成果指標として大人の読書割合についてもご検討ください。
- 「由布の学び検定」は低調ですが団体受験者数との合計では増加しており、その他の項目は70%以上ですので、Bとしました。
- 自分の住む地域の歴史や特性を学ぶことで、地域づくり活動への積極的参加を促すことに期待します。
- 郷土学習は将来的なUターン人材の確保や、親御さんの地域理解の促進に関しても必要と考える。今後一層の充足に期待したい。
- 家庭・地域づくり・郷土学習事業は、地域人材派遣や読み聞かせの成果がある一方、読書離れや地域交流の減少、郷土学習の体系性不足など課題があると思います。今後は、地域人材派遣の計画型化や学年別郷土学習カリキュラム策定、図書館・学校・家庭の連携による読書習慣強化、保護者・地域団体・学校の協力体制の構築で、地域ぐるみの子ども支援を推進していただきたい。
- 地域振興団体「はさま興友会」が主催で由布市内の企業見学を行なう「親子バスツアー」など、民間が主催する行事で本事業にリンクするものは官民連携で推進することも事業の充実に繋がると思料する。
- 自然科学系の郷土学習も面白いのではないか



## 食からはじめる健康づくり。 食と農の再発見プロジェクト

### プロジェクト7の概要について

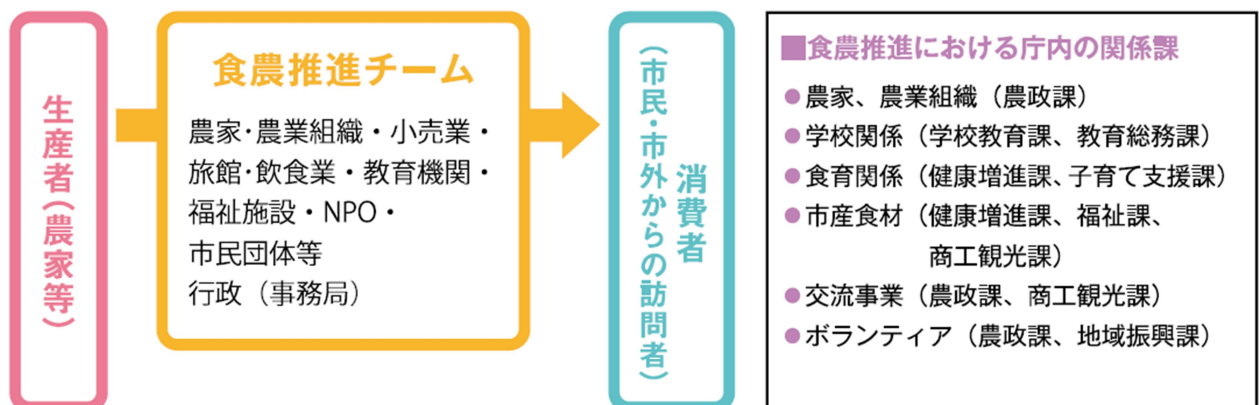
由布市の主要産業の一つである農業は、市民の日々の食材を提供し、健康維持の役割を担うだけでなく、緑豊かな自然景観を生み出す重要な産業であり、由布市の豊かな暮らしを支える基盤となっています。その一方で、次のような課題にも直面しています。

- ①由布市産の食材を市民のみならず、市外からの訪問客が食べられる場所や購入する場所（店舗）、機会が乏しい。
- ②農業生産を通して生み出される里山景観や食生活の豊かさ、健康の維持等、市民生活に密接にかかわっている多面的な機能について、市民の共感を得て次世代に伝えていく取り組みが十分ではない。

以上のことから、このプロジェクトでは、由布市産の農産物のPR、郷土料理を体験してもらうことで、「由布の食」に光をあて、その食を支える農業と結びつけた取り組みを行い、市民が由布市の食材を味わう喜びを感じ、健康づくりに役立て、地元産品に愛着を持てるようにすることを目指します。

### ■ 推進体制

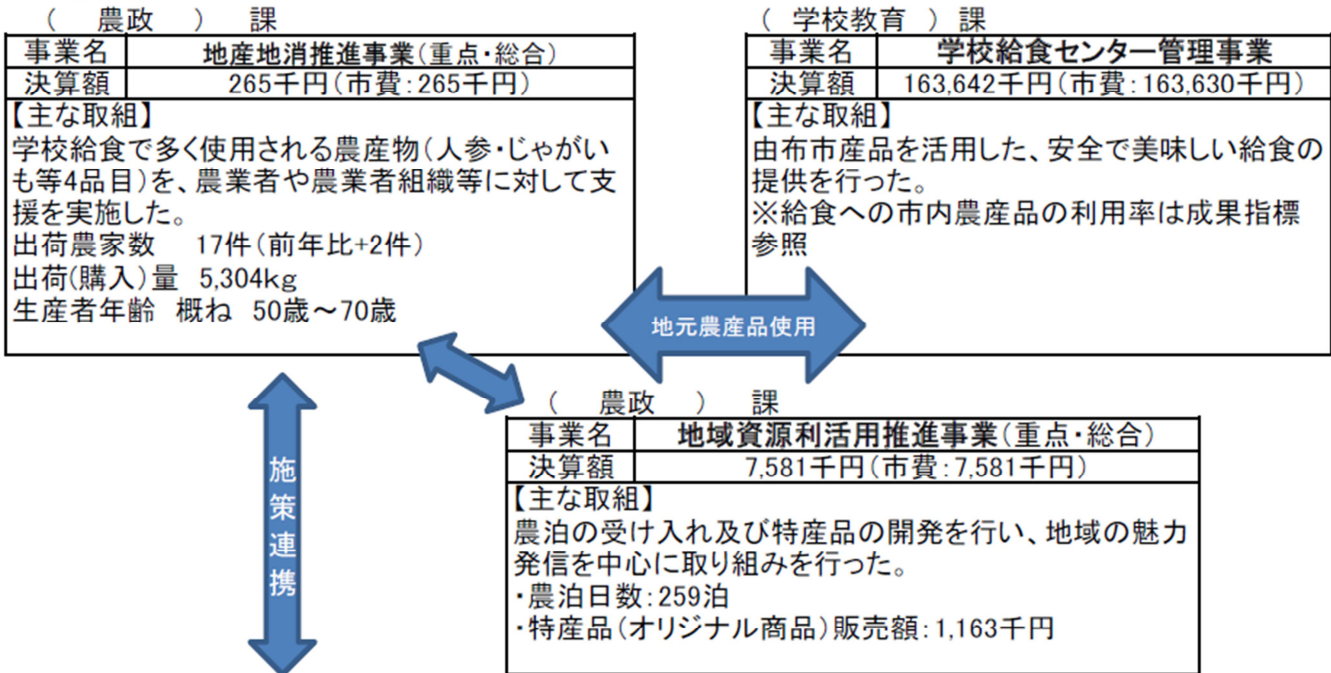
生産者（農家等）と消費者（市民・市外からの訪問者）の間をつなぐ食農推進チームを、小売業や旅館・飲食業、教育機関等の関連団体の連携により立ち上げ、由布市産の食材への理解を深める食農教育等の事業を推進する体制を構築します。



# 食からはじめる健康づくり。 食と農の再発見プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）30-31頁（後期）18-19頁

## 1. 重点事業



## 2. 連携施策

重点戦略プラン 4 地域へ飛び出せ! 健康マイレージプロジェクト	地産地消活動を通じて、生産者・消費者共に健康な食事への意識を醸成
重点戦略プラン 6 「由布の学び」 創造プロジェクト	児童・生徒に地元産農産物の美味しさや、生産者~加工・観光へと繋がる仕組みを、給食を通じて学び、継承者となるよう取り組みを進めている。
重点戦略プラン 8 次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト	
重点戦略プラン 13 ゆふツーリズム推進プロジェクト	特産品ブランド化推進と合わせて、農泊や農村観光事業への展開を進めている。

## 3. 成果指標

プロジェクト7 R6全体達成率B: 79.3% →

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5				
食農教育開催数	6回/年	7回/年	R4	0	0.0%	地産地消 推進事業	農政課	学校 教育課 等
			R5	4	57.1%			
			R6	6	85.7%			
食文化のPR活動	12回/年	22回/年	R4	43	195.5%	学校給食費	学校 教育課	農政課
			R5	24	109.1%			
			R6	17	77.3%			
学校給食への 市内農産物使用 率	21.0%	30.0%	R4	22.9%	76.3%	学校給食費	学校 教育課	農政課
			R5	22.5%	75.0%			
			R6	22.5%	75.0%			

プロジェクト7の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	34点	40点	51点	54点	50点	50点	56点	54点	50点
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	3点 (3.3)	3点 (3.3)	4点 (3.7)	4点 (3.6)	3点 (3.3)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問16『農商観の連携』	R6: 平均値 3.69→ R4: 平均値 4.04 (3.61) R1: 平均値 4.13 (3.79)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問16『農商観の連携』	R6: 平均値 3.06→ R4: 平均値 3.32 (2.81) R1: 平均値 3.10 (2.50)
③審議会評価	3点	C ↓ 事業取組が概ね達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	4点(4.0)	B評価1事業 ↓	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	4点	B 目標値の平均達成率 79.3%	B 昨年度達成率 80.4%
⑥総合評価	18点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(20点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問16『農商観の連携』	R6: 平均値 3.69→ R4: 平均値 4.04 (3.61) R1: 平均値 4.13 (3.79)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問16『農商観の連携』	R6: 平均値 3.06→ R4: 平均値 3.32 (2.81) R1: 平均値 3.10 (2.50)
③審議会評価	3点	C ↓ 事業取組が概ね達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	4点	B 目標値の平均達成率 79.3%	B 昨年度達成率 80.4%
⑥総合評価	14点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(15点)

## プロジェクト7 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 地産地消推進事業

1. 学校給食だけでなく、直売所拡充など家庭での地元農産物利用促進も必要だと感じる。
2. 体験学習や給食での地産地消は継続し、新たな地産地消計画の充実を期待したい。
3. 安定供給や数量確保、加工・流通体制の整備と情報発信強化が必要だと思う。
4. 飲食店や旅館への供給拡大など、官民連携による域内循環を進めてほしい。
5. 農泊や特産品開発の費用対効果を検証し、農家等への支援策も必要だと感じる。

#### ② 学校給食費

1. 生産者インタビュー動画など、子どもが作り手を身近に感じる取組は有効だと思う。
2. 安全で質の高い給食提供の継続は評価できる。
3. 地元食材活用は、規格や生産者減少など構造課題が大きいと感じる。
4. 使用率だけでなく、食育効果や体験価値を重視した指標も必要だと思う。
5. 規格外品対応より、規格品を適正価格で安定調達する方向が農家としてはよいのではないか。

### 委員質疑と回答

- 「食文化のPR活動」が減少したとのことですが、具体的な内容説明がないので判断に困ります。実績概要の内容は、「学校給食への市内農産物利用」に関わるものですので、判断できません。

☞食文化のPR活動の内容としては、給食における郷土料理メニューの回数、農泊における郷土料理の供出などが計上されています。減った主な理由は、給食における郷土料理メニューの減少です。

郷土料理の調理については、とりめしやだんご汁など、食材数が多く、調理工程や時間が多くなる傾向にあることから、給食センターの人員体制では、月2回程度が限度とのことで、減少しています。

## 評価まとめ

プロジェクト7については、農泊や特産品開発の実現性の低さを率直に指摘する委員の意見もあり、審議会委員の評価がBからCへ下降しています。

地産地消については、学校給食を中心とした取り組みに終始している現状があることから、実施概要書にて農政課が回答している、新しい地産地消に関するプロジェクト（地元農家の食材を市内の飲食店・旅館等に提供できる方法の検討）の立ち上げなど、新たな取り組みの実施が期待されます。

学校給食については、これまで地産地消について、試行錯誤をして来ており、その上で地元食材の使用には、一定の制約があることが委員からも指摘されていることから、特定の数値目標だけでなく、食育効果・体験価値に着目することも重要であると思われま

## 委員個別意見

### ①地産地消推進事業

- 学校給食での地元農産物の使用のみでなく、直販所の増設等で家庭における使用を増やす取り組みが必要では
- 地域の産物への理解を深める為、体験学習会をより充実させて欲しい。学校給食への取り組みは諦めず続けるべきではないか？新たな地産地消計画の充実を期待する。
- 学校給食への農産物の供給や農泊の受け入れ、特産品の開発など一定の成果を挙

げているが、食料供給の安定性の低下、地域の食文化継承と消費拡大に向けた取り組みが十分に波及していないといった課題がある。情報発信の強化等による外部需要の創出、中間加工の仕組みづくりや供給体制の再構築等を進め持続可能な地産地消の実現を図っていただきたい。

- 数量と価格ともに消費者に求められる農産品を作ることが必要ではないか？ 獅市場、小売店、直売所等、さまざまあるが、一定の量が揃わなければ、販売も難しいケースもある。他産地と比べて高くても買いたいと思われる商品の生産と供給も、推進するうえでの条件になると思う。
- 農泊や特産品の開発予算と実現性の低さ、達成率の低さを感じます。その分の予算を給食費無償化や、提供農家さんの支援、地産地消の給食にすることで、由布市の魅力が増し、結果的に持続可能な取り組みになるのではと思いました。
- 地元農家の食材を市内飲食店及び旅館等に提供できる方法を検討していく新たな地産地消プロジェクトの立ち上げについては、大分銀行の地域ビジョンにおいて設立した「サステナブルな由布市観光プロジェクト推進協議会」を活用し、域内資金循環に繋げていってほしい。
- 私が所属する財団（人材育成ゆふいん財団）のメンバーが、2年続けてお念頭をテーマにした映画の上映会を実施している。こうしたメンバーとの協働も必要ではないか。

## ②学校給食費

- 農家の方へのインタビューなどの動画を子どもたちに見てもらう取り組みは良いと思いました。生産者の方を身近に感じられると思います。
- 昨年度の審議会委員の指摘を踏まえた記述になっていることは評価できます。
- 安全で質の高い給食提供に努めるとともに、地元産農産物を可能な限り活用している点で評価できますが、調理機械に適した規格品の供給不足や生産者の減少など、構造的な要因により目標達成が困難となっている。単に使用率の向上を追求するのではなく、食育的效果や児童の体験価値を重視した質的指標への転換を検討していただきたい。
- 規格の壁が食材の活用に大きな影を落としている。郷土料理を知ることが幼少期の原体験として将来的なUターンにも大きく影響すると考えられる。コストやマ

ンパワーの問題があるとはいえ、今後の由布市の為にも取り組みを強化して欲しい。

- 規格に合う農産物の納入が困難等の状況にあっても、各事業とも70%以上の目標達成となっていますのでBとしました。
- 規格外品は、給食センターの調理機械では利用し難く、加工することのコストを考えると、規格品の利用を増加させる方がよいのではないか？正直、正規品を正当な単価で買ってもらえたほうが、しっかり作れる農家としては良いのでは？



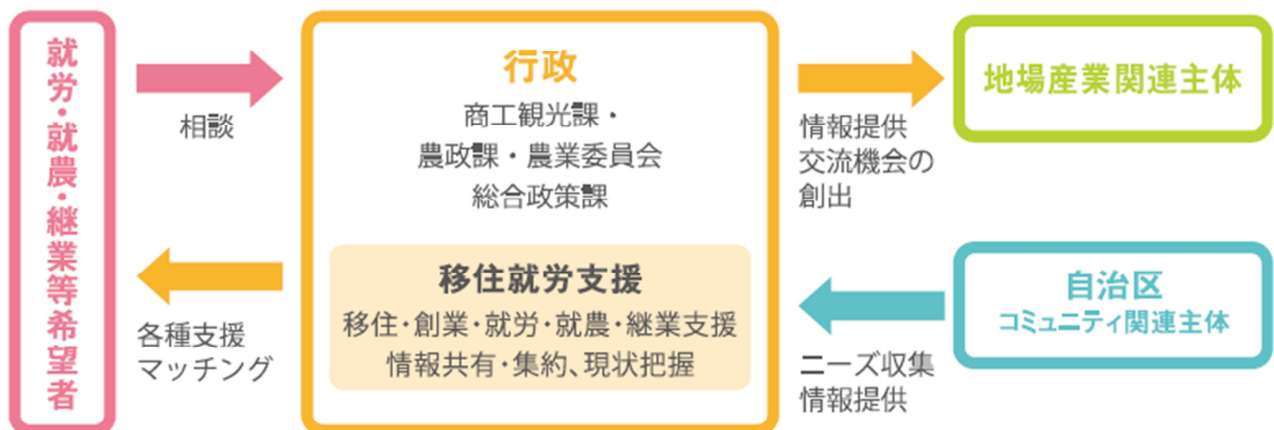
## 次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト

### プロジェクト 8 の概要について

由布市の農業や商業・観光業は、豊かな地域資源の価値を高め、経済の循環を創り出す上で、必要不可欠な産業ですが、現状として労働力の高齢化が進行する等担い手確保が大きな課題となっています。これまで営まれてきた様々な地場産業<sup>1</sup>において、後継者を確保できないままに経営を諦める状況が生じ、市内で働く機会を減らす事態に陥っています。仮に、後継者がいる場合においても、同業種の担い手が少ない中で情報交換の機会が乏しくなっています。

以上のことから、このプロジェクトでは、就農支援事業や、創業支援事業を行うことで、農業や商業・観光業等様々な仕事を生み出している由布市において、若者から高齢者までが世代を超えて生き生きと働き続けられる、魅力的で持続可能な就労環境を創り出すことを目標としています。

### 推進体制



# 次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）34-35頁（後期）20-21頁

## 1.重点事業

（ 農政 ） 課

事業名	就農支援事業(重点・総合)
決算額	26,704千円(市費:5,899千円)
【主な取組】	新規就農者支援事業補助金による、新規就農を望む方への支援制度を設けている。また営農指導員を配置し、個別相談にも対応している。

（ 商工観光 ） 課

事業名	商工振興活性化事業(総合)
決算額	32,008千円(市費:13,339千円)
【主な取組】	商工会への補助や、商店街活性化・魅力創出支援事業の実施に加え、創業支援や異業種間の活動支援事業を実施。就労機会促進事業として短期就労マッチングシステムを導入し市内の慢性的な人手不足の緩和・解消に取り組んだ。

### 各事業の補助金概要

新規就農者関連補助金(概要)	創業支援事業補助金(概要)
<b>【対象者】</b> 由布市内で新たに就農する者又は就農するため研修を受ける者 <b>【家賃補助】</b> 上限2万5千円/月 補助割50% 最大4年間 <b>【審査】</b> 書面審査・面談・現地確認  この他、国の制度である就農準備資金(150万円)、経営開始資金(150万円)の支給を行っている。	<b>【対象者】</b> 法人:市内に本店を有する者 個人:由布市内に主な事業所と住所があること <b>【補助額・対象経費】</b> 上限100万円(賃借料・整備費・登記費・販売促進・機械設備費・人件費) <b>【審査】</b> 書類審査・プレゼン審査

施策連携

施策連携

## 2.連携施策

重点戦略プラン 11 由布ならではの 移住・定住プロジェクト	移住者で、創業を希望する方への支援制度として説明。 移住者には、創業を希望する声が多い
---	--

## 3.成果指標

指標名	直近値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5				
異業種交流会 の開催数	1回/年	5回/年	R4	3	60.0%	商工振興 活性化事業	農政課 商工 観光課	総合 政策課 地域 振興課
			R5	2	40.0%			
			R6	2	40.0%			
市内新規 就労・創業 就農者数	26人 (累計) (H28-30)	60人 (累計) (R1-7)	(累計) (R1-R6)	117	195.0%	①就農支援事業 ②商工振興 活性化事業	農政課 商工 観光課	
創業件数	5件	8件	R4	6	75.0%	商工振興 活性化事業	商工 観光課	
			R5	7	87.5%			
			R6	6	75.0%			
研修先となる 先進農家数	延べ6軒	延べ10軒	R4	8	80.0%	就農支援事業	農政課	
			R5	8	80.0%			
			R6	9	90.0%			

プロジェクト8 R6全体達成率A:100.0% →

プロジェクト 8 の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
	事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	34点	44点	51点	50点	51点	51点	51点	49点	51点
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.4)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問15『農林畜産業の持続活動』	R6:平均値 4.00→ R4:平均値 4.16 (3.65) R1:平均値 4.30 (3.85)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問15『農林畜産業の持続活動』	R6:平均値 2.82→ R4:平均値 3.05 (2.69) R1:平均値 2.85 (2.43)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価2事業	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 100.0%	A 昨年度達成率 92.7%
⑥総合評価	20点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(20点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問15『農林畜産業の持続活動』	R6:平均値 4.00→ R4:平均値 4.16 (3.65) R1:平均値 4.30 (3.85)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問15『農林畜産業の持続活動』	R6:平均値 2.82→ R4:平均値 3.05 (2.69) R1:平均値 2.85 (2.43)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 100.0%	A 昨年度達成率 92.7%
⑥総合評価	15点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(15点)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新規就農	8人	8人	9人	9人	6人	7人
新規就労	5人	2人	32	7人	12	10
年計	13	10	41	16人	18	17
累計	13	23	64	80人	98	115

## プロジェクト 8 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 就農支援事業

1. 新規就農者が由布市を選んだ理由や、近年の減少傾向の要因について分析を進めてほしい。
2. 就農後の継続率や実数維持が重要で、定着に向けた伴走型支援とフォロー強化が必要だと思う。
3. 研修先農家の増加や受入体制の充実は評価でき、インセンティブなど支援内容も示してほしい。
4. 経営強化は加工販売だけでなく、収量向上や品質・単価・ブランド力強化を重視すべきだと感じる。
5. 移住就農者の家族支援や、副業・二拠点生活など多様な働き方への対応も重要だと思う。

#### ② 商工活性化事業（創業支援事業）

1. 異業種交流会は、目標回数に届いていないが、参加者のニーズ把握調査を行い、内容刷新が必要だと思う。
2. 異業種交流から新事業につながる支援や、企業間マッチング強化は重要だと感じる。
3. 創業支援補助やゆふマッチボックスは、雇用確保策として評価できると思う。
4. 観光・宿泊増加に伴うインフラ対応など、観光活性化とオーバーツーリズムなどの対策の両立が必要だと思う。
5. IT・AI分野への情報提供や、職場体験など人材確保の取組拡大を期待したい。

#### ③ 企業誘致

1. 企業誘致は用地確保など課題は多いが、庄内地域の物流面の強みを活かした誘致策を検討してほしい。

---

## 委員質疑と回答

- 研修先農家が1件増えたのは朗報です。何らかのインセンティブがあったのであれば記載してください。
- ☞ 研修品目として新たに設定した白ネギについて、R4年度から新規就農をしている農家さん（農業経験者のためファーマーズスクールには行っていない）が、研修先農家さんとして協力してくれることになりました。白ネギは、由布市として今後も力を入れるため、研修先農家を現在増やすべく農政課も努力しているとのこと。報酬としては県補助で年間30万円ですが、農家さんとしては、研修に割く時間が確保できないというのが、研修先が集まらない主な理由のようです。
- 新規就農者数は、R5、6年はやや減少傾向にありますが、理由が分析できていれば記載してください。
- ☞ 移住者と同様に、どうしても、相談数自体、年毎によって波があります。また、新規就農については、ご本人の意欲や覚悟が無いと失敗することもあるため、市では新規就農支援の際は、丁寧に就農環境や農業の実態などを説明しています。この点においても新規就農に結び付く場合と結びつかない場合があり一定の波があるのが現状です。

## 評価まとめ

プロジェクト8は、就農支援、創業支援事については、累計実績がR6年度も積み重なったため、目標値が達成されている状況ですが、異業種交流会については、昨年度に引き続き目標値に届いていません。

複数の委員からも、参加者のニーズ調査や、交流による異業種間による取り組みの拡大、深化が必要であるなど、異業種交流会のあり方について意見が上っています。

域内での経済の好循環を生み出すために、各産業の様々な事業者が自らの特色を活かし活躍できる環境の整備が必要です。

## 委員個別意見

### ①就農支援事業

- 新規就農者が由布市を選んだ理由について、その集計や分析を進めてほしいです。
- 就農後の継続率と、現状の実数が維持されているかどうかが大切になる。就農支援から継続的に伴走型の支援、フォローアップがより必要ではないか。
- 研修先となる先進農家数も増加し、新規就農者の行政としての受入れ体制の充実や農業生産者の育成に寄与しており評価できる。
- 研修先農家が1件増えたのは朗報です。何らかのインセンティブがあったのであれば記載してください。新規就農者数は、R5, 6年はやや減少傾向にありますが、理由が分析できていれば記載してください。追加資料にあった離農者が少ないことは評価できます。
- 毎年コンスタントに新規就農者が増えており、研修先となる先進農家数も増加していることは評価できると思います
- 経営強化は必要だが、その手法が加工や販売が筆頭にあることには違和感がある。大多数の農業経営体において、言わずもがな売り上げを構成する要素は、量×単価であり、収量の最大化と、秀品率、信用（ブランド）による単価向上にまず目を向けるべきと考える。
- 新規就農者が食べていける作物選定や農家のあととりの確保のための作業の効率化を図っていただきたい。
- 農・商（小売り）以外にも、ITやAIコンサルなどの仕事をし、リモートワークや二拠点生活をするという働き方もあります。
- 県外からの就農支援で移住された本人だけでなく、家族（配偶者や子ども）にも手厚い支援をしてあげて欲しい。例えば、転向元と転校先で授業の進捗がちがったり、配偶者が地域になじめるように地域との交流をうながしていただきたい（自治会長や民生委員など）。

## ②商工活性化事業（創業支援事業）

- 異業種交流会はあまりニーズがないようですので、これまでの参加者や関係者にアンケートをとるなどして、その結果に基づいて内容を刷新する必要があるように思います。
- 異業種交流会は、交流を契機としてその後、新たな取組が生まれることが大切であると考えますので、交流で生まれたグループの活動を支援する仕組みは評価できると思います。
- 異業種交流会をより発展させ、交流を越えて産業創造へ繋がるような市内企業間のマッチングが必要ではないか。
- 創業支援補助金や短期就労マッチング「ゆふマッチボックス」などが成果を上げ、市内の雇用環境改善に一定の効果を発揮していると思う。今後も関係機関との連携を深め、創業支援と雇用対策を一体的に推進することで市内産業の持続性向上に繋げていただきたい。
- 湯布院地域においては、現在も着工中の新規宿泊所がいくつもあるが、インフラが将来的に対応できるかが課題はと感じる。プラン9のオーバーツーリズムにも通じるが、活性化と共にフォローも必要である。
- 閑散期と繁忙期がある旅館などの施設では、その時期に合わせた人員配置が必要となることから、ゆふマッチボックスの取組は評価できると思います
- 儲かる起業のためのアドバイスが受けられる仕組みづくりに期待します。
- 商工会に入っていますが、ITやAIを生業にしているので、私たちに1年間音沙汰もなく、有益な情報もありません。
- 私が働いている設計コンサルタント会社で、今年1名の中学生を職場体験で受け入れた。特に3K職場として働き手の確保が困難な職場ではあるが、仕事の面白さ、大切さを理解していただくことを目的に初めて実施した試みではあるが、今後も続けていきたいと考えている。

## ③企業誘致

- 企業誘致については用地確保等課題は多いが、高速道路の雪による通行止めの場合に運送ルートを確認しやすい庄内地域のメリットを活かした誘致方法などの検

討を期待したい。



## 滞在型・循環型保養温泉地 実現プロジェクト

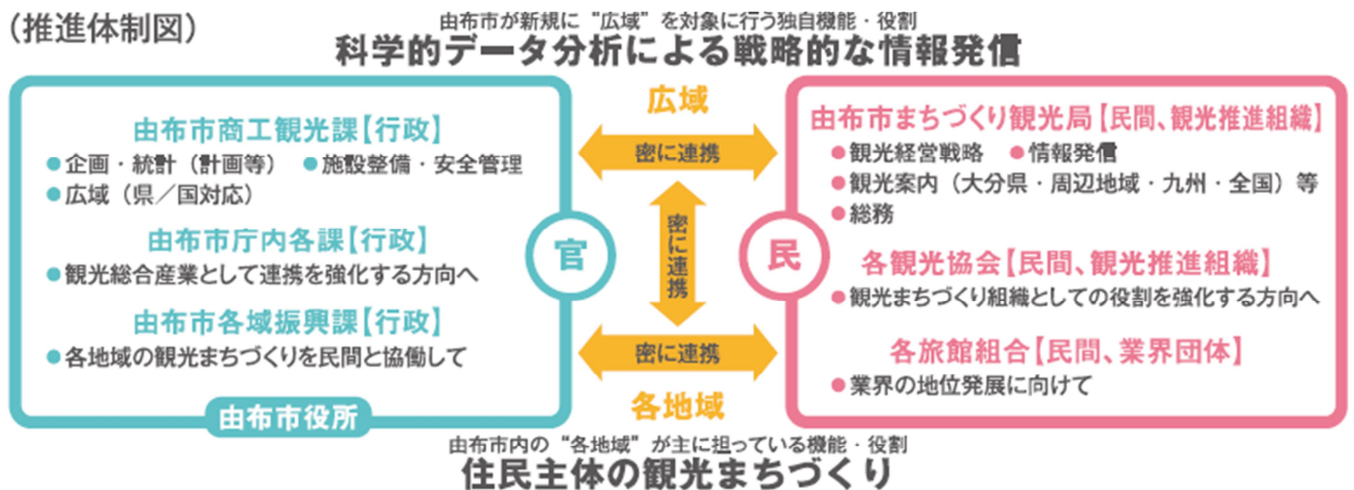
### プロジェクト9の概要について

由布市の観光は、全国的な知名度を有する温泉地を抱え、観光地としての認知度は高く、国の内外を問わず多くの観光客が訪れており、市の産業の中心的な存在の一つでもあり、市の持つ強みともなっています。そういった中、競争力の高い魅力ある観光まちづくりを持続可能とするために以下のようなことが課題となっています。

- ①観光基盤の整備
- ②情報発信
- ③人材育成

このプロジェクトでは、観光プロモーションを始めとした様々な観光施策を展開することで、由布院温泉を核として由布市全体を魅力溢れるものにし、競争力の高い魅力ある「滞在型・循環型保養温泉地」を目指し、持続可能なまちづくりに貢献することを目的としています。

#### (推進体制図)



# 滞在型・循環型保養温泉地 実現プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）38-39頁（後期）22-23頁

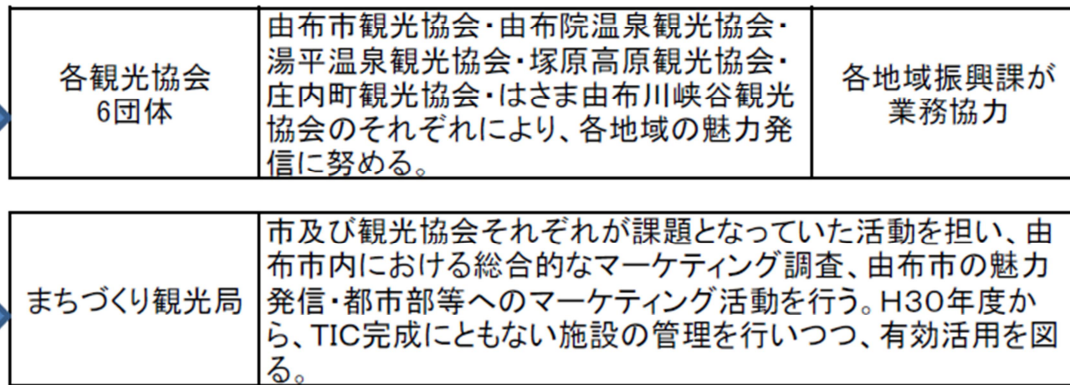
## 1.重点事業

（ 商工観光 ）課

事業名	観光振興事業(重点・総合)
決算額	71,905千円(市費:71,905千円)
【主な取組】 各地域の観光協会やまちづくり観光局と連携し、県内向けのプロモーション事業を主軸とし、観光客数増加に向けた観光振興策を実施した。	

（ 商工観光 ）課

事業名	新型コロナウイルス緊急対策事業
決算額	1,724千円(市費:624千円)
【主な取組】 新型コロナウイルス緊急対策に伴い、大分県新型コロナウイルス感染症緊急対策特別資金の借入をした事業者に対し、その利息の一部を補給する。	



## 2.連携施策

重点戦略プラン 12 地域プロモーション推進プロジェクト	観光振興を通じて、地域の魅力発信に努めた。
重点戦略プラン 13 ゆふツーリズム推進プロジェクト	新たな観光スタイル(農泊等)への推進や、まちづくり観光局で観光分析により、効果的な商品開発を図っている。

プロジェクト9 R6全体達成率A: 135.3% →

## 3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5	R6			
年間観光客数	442万人	450万人	R4	331	73.6%	観光振興 事業	商工観光課	地域 振興課
			R5	404	89.8%			
			R6	429	95.3%			
観光消費額	15,641 百万円	15,924 百万円	R4	15,648	98.3%			
			R5	25,933	162.9%			
			R6	27,200	170.8%			
年間宿泊客数	98.0万人	99.8万人	R4	127.3	127.6%			
			R5	138.9	139.2%			
			R6	139.5	139.8%			

プロジェクト9の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	26点	47点	46点	49点	51点	49点	54点	57点	<b>62点</b>
審議会評点 (平均点)	3点 (2.6)	3点 (3.1)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	4点 (3.8)	<b>4点 (4.1)</b>

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.57→ R4: 平均値 3.66 (3.39) R1: 平均値 3.72 (3.59)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.07→ R4: 平均値 3.07 (2.69) R1: 平均値 2.99 (2.56)
③審議会評価	<b>4点</b>	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価2事業	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 135.3%	A 昨年度達成率 130.6%
⑥総合評価	<b>21点</b>	<b>A</b> 計画が十分に達成されている	A 昨年度総合評価(21点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.57→ R4: 平均値 3.66 (3.39) R1: 平均値 3.72 (3.59)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.07→ R4: 平均値 3.07 (2.69) R1: 平均値 2.99 (2.56)
③審議会評価	4点	<b>B</b> 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 135.3%	A 昨年度達成率 130.6%
⑥総合評価	<b>16点</b>	<b>B</b> 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト9 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 観光振興事業

1. 観光は基幹産業として成果が出ているが、交通混雑や開発など負の影響への対策も必要だと思う。
2. オーバーツーリズム対策とレスポンシブルツーリズム（地域環境や住民生活に配慮した責任ある観光）の徹底を進めるべきだと感じる。
3. 市内周遊促進や観光客分散の仕組みづくりを強化してほしいと思う。
4. 施策名と指標の整合や、一人当たり宿泊数など適切な成果指標設定が必要だと思う。
5. 駐車場整備やトイレ財源確保、他市連携など受入環境整備も重要だと感じる。

#### ② 新型コロナウイルス対策事業

1. コロナ特別資金の利子補給継続は、事業者の金融負担軽減に重要な支援だと思う。
2. 利子補給だけでなく、金融機関と連携した柔軟な返済計画支援も必要だと感じる。
3. 借換制度など金融支援策の現状把握と、事業者への周知強化を続けてほしい。
4. DX導入や経営強化支援と連動し、返済後を見据えた体質改善が必要だと思う。
5. 利子補給は制度支援の性格が強く、成果評価になじみにくい面もあると感じる。

### 委員質疑と回答

- 「滞在型・循環型」とのタイトルがついていますが、施策の内容と必ずしも一致しないように感じます。「循環型」については、施策の説明がなく、あてはまる成果指標もありません。したがって評価に困ります。

☞ 由布市観光基本計画では、『観光産業だけではなく、地場産業の振興と地域自立型経済への展開—観光を通じた地域の産業振興（地域循環型へ）』という方針が示されており、総合計画でも、『経済の循環から地域が潤うまちづくり』というコンセプトが示されています。

循環型とはこのような趣旨であり、昨今の情勢を加味すれば、地域資源の持続的な利用、自然環境や景観の保護、地域産業の育成、観光客と地域住民の共生といった持続可能性（サステナビリティ）という要素も含んでいると言えます。

単純な経済効果額という概念にも当てはまらないため、定量的な指標の設定の難度が高く、指標の設定がしにくい状況です。

## 評価まとめ

プロジェクト9は、観光消費額など目標の達成率が高水準で維持されており、ポイ捨て禁止条例制定を評価する委員の意見もあるなど、審議会評価も昨年度同様にBランク評価となっています。

しかし、多くの委員が指摘している通り、オーバーツーリズムによる問題や、市内周遊促進・観光客の分散などの取り組みが重要と思われれます。

観光振興としては、令和7年12月に由布市と別府市で締結された『世界一の保養・大温泉郷協定』による、国内外に向けた観光客誘致活動など、広域での取り組みが期待されます。

新型コロナ対策事業については、例年、多くの委員から、借入金の返済に関する懸念の意見がなされており、市としても、利子補給を行うなど支援を行っていることから評価ができます。

## 委員個別意見

### ①観光振興事業

- 観光は由布市（湯布院）にとって、基幹産業であり、宿泊者の増加は喜ばしいことであるが、民博施設の増加や浸水エリアでの埋め立て造成をはじめ、大型バスに起因した交通問題など、負の側面もあり、重点プランを進めるためには、土地利用コントロールなど、先を見据えた施策も必要
- 市内全体での観光客の受け入れに向けて、より市内周遊型の観光を促進していきたい。湯布院地域ではオーバーツーリズム対策として、レスポンスブルツーリズムやツーリストシップなどの周知を通して、地域負荷を低減させる観光振興の在り方を検討していきたい。
- 「滞在型・循環型」とのタイトルがついていますが、施策の内容と必ずしも一致しないように感じます。「滞在型」は宿泊者数と関係しますが、1人当たり宿泊数などの指標の方が適当でしょう。「循環型」については、施策の説明がなく、あてはまる成果指標もありません。したがって評価に困ります。施策の効果を検証できる指標の設定が求められます。オーバーツーリズム対策としてポイ捨て禁止条例の成果が出ているのは評価できますが、観光客の分散を図る仕組みづくりも政策に盛り込んでください。
- 消費額・宿泊者数が目標を大幅超過し高い成果を上げていますが、円安やコロナ終息の影響もあるので、政策効果の検証が必要ではないかと思えます。また、ポイ捨て禁止条例の施行を機にレスポンスブルツーリズムを徹底し、データに基づき他地域（市内）への観光客分散を急ぐことで、持続可能な観光地を目指していただきたい。
- 宿泊客数と観光消費額は目標達成、観光客数もほぼ目標達成であることから高く評価できると思えます
- 「湯布院の旅館は料金が高いので、日中は湯布院で観光するが、宿泊は料金が安い別府にする。」という声も聞くので、高級旅館は現状のままで、それ以外の旅館は「素泊まり」のような形にすれば、湯布院に宿泊してくれることになり、周囲の飲食店の売上増につながるのではないかと思います。
- 連休時の混雑解消に駐車場確保・増設が必要と感じます。（湯布院）

- 別府市などの他市と連携して、調査や研究を進めることを期待しています。
- 国際情勢により変動はあるものの、湯布院を中心とした魅力発信による集客力維持強化は評価できる。オーバーツーリズムについては課題が多いが、湯の坪街道を中心としたごみ問題・トイレ整備などへの財源確保策として欧州のように公衆トイレ有料化も視野に入れることも必要と思料。

## ②新型コロナウイルス緊急対策事業

- コロナ禍で特別資金を借り入れた事業者への利子補給を継続し、金融的な負担を軽減するという点で重要だと思料。ただ、利子補給に加え金融機関と連携した柔軟な返済計画の支援が不可欠ですし、事業者の体質改善を促すため、経営強化・DX導入支援など他施策との連携を強化し、借入金返済後の持続可能な経営体制を確立できるようにしていただきたい。
- 新型コロナ蔓延時に企業が負った負債の返済について、金融機関でも多くの借り換え案が出てきているので、市としても現状の把握と周知を続けて欲しい。
- 利息の一部補給を行っている事業ということであれば、評価になじまないのかなと思料。



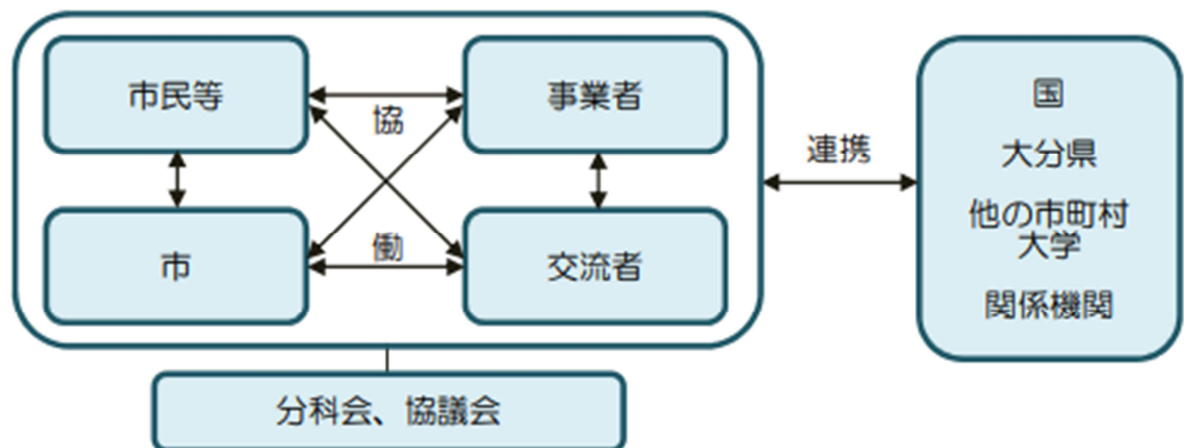
## 民官学の協働による 豊かな水環境創出プロジェクト

### プロジェクト10の概要について

由布市環境基本条例において「豊かで美しい環境を未来の子どもたちへ引き継ぐ」ことを決意しています。この決意を達成するにあたり、次のような課題があります。

- ① 豊かで美しい環境の根源である水環境に関わる課題を解決していくためには、その課題がどのように起きているのかについての客観的な調査研究、具体的な水環境創出の実践活動が必要である。
- ② 環境に対する市民や事業者・交流者の理解、関心をさらに高めることが、由布市の環境を豊かで美しくしていくために重要である。更には、子どもだけでなく大人を対象とした環境学習の機会又は人材の育成が必要である。
- ③ 持続可能な社会の実現のため「持続可能な開発目標（SDGs）」を活用する必要がある。とりわけ、以下の目標の達成が重要となる。

以上のことから、このプロジェクトでは、環境基本条例に基づいて策定された、由布市環境基本計画に沿って、より多くの市民や事業者が、由布市の環境に対してより正確な情報と知識、関心を持ち、現場での実践活動に参加することで、水と緑に育まれた由布市の豊かで美しい環境のもと、人々（交流者も含む）が生き生きと活動できる環境を次の世代へと継承していくまちを実現することで、住み続けたいまち、住みたいまち、訪れたいまちを目指します。



# 民官学の協働による 豊かな水環境創出プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）42-43頁（後期）24-25頁

## 1. 重点事業

（環境）課		（環境）課	
事業名	豊かな水環境創出事業(重点)	事業名	河川水質再生・保全事業(重点)
決算額	900千円(市費:900千円)	決算額	517千円(市費:517千円)
【主な取組】 調査研究数 2件(豊水会2件) モデル事業 3件(豊水会・挟間水辺・庄内水の輪) 会参加者:250名		【主な取組】 市内の自然環境(河川)・生態状況等把握するため水質検査を年2回実施 (調査地点 12地点 挟間3地点・庄内3地点・湯布院6地点)	

（環境）課	
事業名	豊かで美しい由布の環境事業(重点)
決算額	288千円(市費:288千円)
【主な取組】 環境学習3回(由布院小ミズゴマツボ学習会・阿南小環境学習会、親子釣り教室など) ごみ減量学習会2回(挟間中、由布川小学校) 地球温暖化対策地域協議会活動15回 その他学習会や清掃活動、イベントでの啓発活動等	

## 2. その他の事業

（水道）課		（建設）課	
事業名	水道管理事業	事業名	河川総務費
決算額	171,581千円※一般会計措置分	決算額	3,440千円(市費:3,411千円)
【主な取組】 上水道を運営するため、各種施設整備や水源・水質調査等		【主な取組】 若杉ダム(湯布院)の管理を実施。防災(治水)対策と兼て、水環境の保全対策を図る。 河川(大分川)周辺の環境整備(除草作業)を関係する自治区へ委託(県から直接対象自治区へ支払い)	

## 3. 成果指標

指標名	基準値(H30)	目標値(R7)	実績値		目標達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5				
水環境創出 モデル事業・研究数	1事業	4事業	R4	4	100.0%	豊かな水環境 創出事業	環境課	水道課等
			R5	4	100.0%			
			R6	4	100.0%			
環境に関する学習 会・ イベント等開催数	26回	40回	R4	28	70.0%	河川水質再 生・ 保全事業	環境課	水道課等
			R5	41	102.5%			
			R6	35	87.5%			
環境学習の 指導者数	3名	6名	R4	3	50.0%	河川水質再 生・ 保全事業	環境課	水道課等
			R5	5	83.3%			
			R6	6	100.0%			
上記2つの取組み に 参加した市民の数	606人	800人	R4	377	47.1%	河川水質再 生・ 保全事業	環境課	水道課等
			R5	1133	141.6%			
			R6	984	123.0%			

プロジェクト10  
R6全体達成率A: 102.6%→

プロジェクト10の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
	事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	34点	43点	52点	54点	51点	51点	49点	58点	62点
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.8)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	4点 (3.9)	4点 (4.1)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問17『豊かな水資源の確保』	R6:平均値 4.21→ R4:平均値 4.49 (4.11) R1:平均値 4.63 (4.18)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問17『豊かな水資源の確保』	R6:平均値 3.12→ R4:平均値 3.41 (2.94) R1:平均値 3.01 (2.62)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	5点(5.0)	A評価2事業 ↓	昨年度評価(4.0)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 102.6%	A 昨年度達成率 106.9%
⑥総合評価	21点	A ↓ 計画が十分に達成されている	B 昨年度総合評価(20点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問17『豊かな水資源の確保』	R6:平均値 4.21→ R4:平均値 4.49 (4.11) R1:平均値 4.63 (4.18)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問17『豊かな水資源の確保』	R6:平均値 3.12→ R4:平均値 3.41 (2.94) R1:平均値 3.01 (2.62)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 102.6%	A 昨年度達成率 106.9%
⑥総合評価	16点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト10 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 豊かな水環境創出事業

1. 森林環境と連動した水辺保全の取組を、今後も強化してほしいと思う。
2. 地味でも重要な分野であり、自治体が継続して取り組むべき施策だと感じる。
3. 指標は概ね達成しており、市民・団体・事業者の協力体制もできていると思う。
4. 関係団体の活動状況を注視し、必要に応じた追加支援が必要だと思う。
5. デジタル広報や調査結果の公表など、市民向けPR強化が重要だと感じる。

#### ② 河川水質再生・保全事業

1. 水環境の取組は社会教育と連携し、大人が行動で示し子どもに背中を見せる形で進めてほしい。
2. 水質検査で基準を概ね達成している点は評価でき、継続した調査が重要だと思う。
3. 国・県と連携し、河川の維持管理や氾濫対策を含めた保全強化が必要だと感じる。
4. 水質関連データ（国・県も含めて）は市民に分かりやすく示し、調査地点や方法の見直しも必要だと思う。
5. オーバーツーリズムが河川環境へ与える影響についても、実態把握が必要だと感じる。

### 委員質疑と回答

- ・評価表における委員からの質疑なし

## 評価まとめ

プロジェクト10は、環境学習会やそれに参加する市民の数等が減少したものの、環境学習指導者の数が目標値に達したため、プロジェクト全体の達成率は昨年引き続き高水準です。

審議会評価も昨年度同様にBランクであり、環境学習などの活動に関しては、多くの委員から取り組み内容が評価されています。大分川流域をはじめ、市内各地で、息の長い活動が様々に行われていくことに意義があることから、今後も継続した取り組みが望まれます。

## 委員個別意見

### ①豊かな水環境創出事業

- 豊かな水辺を確保するために森林環境との関係を強化する取組みに期待します。
- 本施策には予算配分が少なく、どちらかという地味な内容ですが、こうした施策こそ自治体に取り組むべき施策だと思います。今年度はゴミ減量化対策に力を入れたため、水環境関係の指標に若干低下が見られましたが、参加市民数が高止まりしているので大きな問題とは思えません
- 「水環境創出モデル事業数」、「環境学習会の指導者数」、「環境学習会等参加者数」は目標達成であり、「環境学習会・イベント開催数」はほぼ目標達成でR6年度の減少理由もきちんと整理されている
- 市民、事業者、行政等が協働する多主体連携の体制が確立されていると思います。
- 事業が続く中で、市内各団体の運用状況が不安定になってはいないか？それぞれの団体の運用状況に注視し、必要であれば新たな支援策を通して水環境向上に取り組んで欲しい。
- インターネットやSNSが主流となる現代において、より幅広い市民や観光客（交流者）の関心を引き付けるための戦略的なデジタル広報の強化や学習会参加者の属性や理由を分析し、次の活動に活かすデータ駆動型の改善が活動の持続可能性

を高めることに繋がると思います。

- これまでの取り組みや調査研究結果の公表など、市民へのPRを進めるべきでは。

## ②河川水質再生・保全事業

- 昨年度も書きましたが、社会教育と連携することで、子供だけでなく大人を巻きこみながら継続することを望みます。子供たちに大人の背中を見せてください。
- 年2回の水質検査を通じて河川の状況を客観的に把握し、河川水質が概ね環境基準を達成している点は評価できます。今後、国や県土木との連携を強化し、河川の手入れ不足や氾濫対策を含む総合的な河川保全事業を推進することを期待します。
- 経年データの蓄積は重要であるが、県や国土交通省の由布市の関連データを分かりやすく市民に伝えることも必要。また、新たな調査地点や調査方法の見直しも含め、こうしたデータが由布市の水質再生保全に活用されるよう期待する。
- オーバーツーリズムによる河川環境への影響があるのであれば、調査を行うべき。



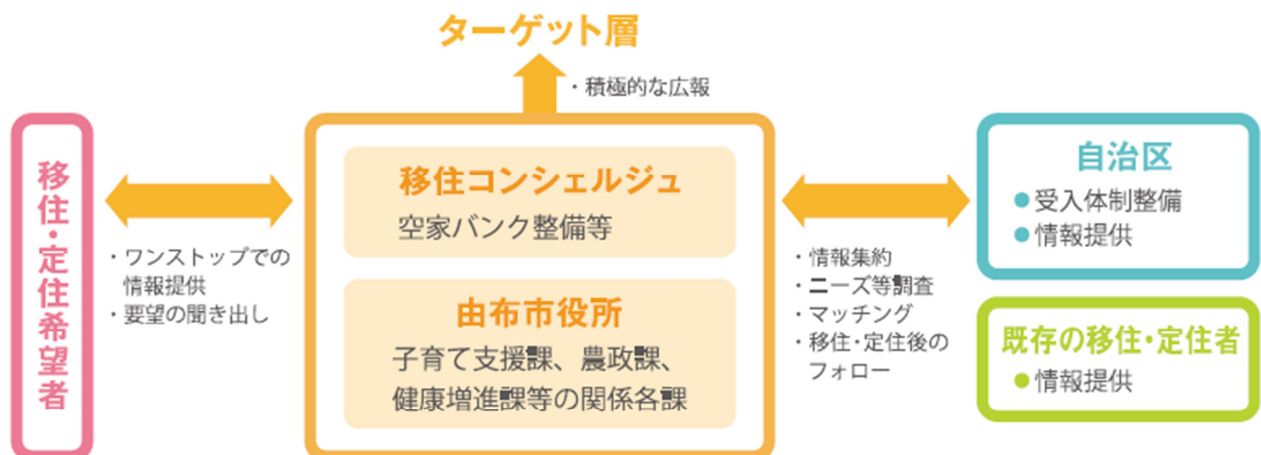
## 由布ならではの 移住・定住プロジェクト

### プロジェクト 11 の概要について

由布市は、豊かな自然環境や充実した子育てサービス、そして大分都市圏という立地がありますが、近年は少子高齢化が進み、空き家の増加、自治区の存続も懸念されています。また単に移り住むだけの移住では、地域とのつながりが形成されにくいいため、自治会や地域文化の維持が困難な状況になることが懸念されています。

以上のことから、このプロジェクトでは、空き家バンク制度や、移住補助金の活用など、由布市の強みを十分に活かした定住促進の取り組みを進め、自治区と行政の連携により、スムーズに移住希望者が地域に住み受け入れられる環境づくりを行い、両者にとっての幸せな移住・定住を目指します。

### ■ 推進体制



# 由布ならではの 移住・定住プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）46-47頁（後期）26-27頁

## 1.重点事業

（総合政策）課

事業名	由布市に住みたい事業(重点・総合)
決算額	25,569千円(市費:1,717千円)
【主な取組】	
空き家バンクでの契約成立数:13件(21人)	
地域別居住者:挟間9・庄内6・湯布院6	
移住支援金(2件)・移住応援給付金(53件)	
(※県外からの移住者のみ)に加え、空き家改修補助制度(家財処分:5件、改修:8件)を実施	

（総合政策）課

事業名	UIJターン推進事業(重点・総合)
決算額	359千円(市費:270千円)
【主な取組】	
①移住相談(オンライン・電話相談含む) 215件(R5:201件)	
②移住に向けた広報(県外での移住相談会へ参加し、魅力発信とともに移住相談を実施)	

連携

連絡調整

（各地域振興課）

・空き家 登録/利用申込み の受付 ・空き家見学の連絡調整/現地対応  
・リフォーム等補助金申請の受付/実績の確認 etc

## 2.連携施策

重点戦略プラン 3 “市民が主体!!” コミュニティ活性化 プロジェクト	地域の活動を促進するために、移住者が積極的参加するよう呼び掛け。空き家情報の提供呼びかけ(市報)
重点戦略プラン 6 「由布の学び」 創造 プロジェクト	移住相談会等において、子育て世代の方には「由布市での子育て環境」をPR⇒子ども医療費で県外からの移住者を把握
重点戦略プラン 8 次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト	移住相談会で、就農・起業等の制度説明や体験を通じて市内の「しごと」をPR
重点戦略プラン 12 地域プロモーション推進プロジェクト	移住促進に向けた、市内の魅力発信と併せた取り組み⇒市内(県内)に移住された方との交流会の実施

## 3.成果指標

指標名	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値		目標 達成率	対象事業名	担当課	関係課
人口動態における 社会動態の 推移数 ※毎年度末時点	+46人	±0人	R4	114	+114	UIJターン 推進事業	総合 政策課	地域 振興課
			R5	376	+376			
			R6	335	+335			
空き家バンクへの 新規登録件数	29件	30件/年	R4	35	116.7%	由布市に 住みたい事業		
			R5	21	70.0%			
			R6	21	70.0%			
空き家バンク 利用率	66%	85%	R4	66	77.6%			
			R5	67	78.8%			
			R6	64	75.3%			
移住・定住施策を 活用した 移住定住者数	38人	45人/年	R4	103	228.9%			
			R5	125	277.8%			
			R6	96	213.3%			

プロジェクト11の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	35点	47点	57点	56点	54点	52点	56点	57点	59点
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9点)	3点 (3.1)	4点 (3.8)	4点 (3.7)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	4点 (3.7)	4点 (3.8)	4点 (3.9)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問20『UIJターン等の推進活動』	R6: 平均値 3.84→ R4: 平均値 4.11 (3.79) R1: 平均値 4.07 (3.82)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問20『UIJターン等の推進活動』	R6: 平均値 2.89→ R4: 平均値 2.91 (2.73) R1: 平均値 2.57 (2.42)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	4点(4.0)	B評価2事業 ↓	昨年度評価(4.5)
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 119.5% ↓	A 昨年度達成率 142.2%
⑥総合評価	20点	B ↓ 計画がかなり達成されている	A 昨年度総合評価(21点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問20『UIJターン等の推進活動』	R6: 平均値 3.84→ R4: 平均値 4.11 (3.79) R1: 平均値 4.07 (3.82)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問20『UIJターン等の推進活動』	R6: 平均値 2.89→ R4: 平均値 2.91 (2.73) R1: 平均値 2.57 (2.42)
③審議会評価	4点	B 事業取組がかなり達成されている	B 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	5点	A 目標値の平均達成率 119.5% ↓	A 昨年度達成率 142.2%
⑥総合評価	16点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(16点)

## プロジェクト 1 1 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ①由布市に住みたい事業、②UIJ ターン推進事業

1. 挾間・湯布院に続き庄内でも社会増となった点は大きな成果で、施策効果の分析を示してほしい。
2. 移住相談は増加しており全体は好調だが、地域差を踏まえた重点対策が必要だと思う。
3. 空き家バンクは登録や利用率が伸び悩み、登録要件や運用改善が必要だと感じる。
4. 空き家だけでなく土地需要や分譲地整備など、受け皿の拡充が重要だと思う。
5. ニーズを絞った PR や企業連携、移住後フォロー強化が必要だと感じる。

### 委員質疑と回答

- ・評価表での委員質疑なし

## 評価まとめ

プロジェクト 1 1 については、庁内事務事業評価において、移住や空き家バンクに関する補助金について、補助金交付の実態を踏まえ、適時制度の見直しを行うべきとの観点から、B（見直して事業実施）との判定を受けたことから、総合評価も昨年度の A 評価から、B 評価となっています。

審議会委員からは、庄内も含めた社会増になったこと、要因としては子育て施策の充実もあるのではないかと評価されているものの、移住・転入・転居に関しては、市内地域間格差があること、移住者ニーズの把握、移住後のフォローなど求める意見があり、それらを踏まえ移住等の取り組みをより進めることが望まれます。

## 委員個別意見

### ①由布市に住みたい事業、②UIJ ターン推進事業

- 従来から社会増であった挾間・湯布院の両地区に続き、庄内地区でも社会増が見られたことは懸案の改善、大きな成果だと思えます。政策がどの程度影響したのかがわかれば、この傾向を維持できると思えます。空き家バンク関係の2指標が伸び悩んでいますが、p.83にその理由が説明してありますので、今後の展開が予想できます。他の施策の記述についてのお手本になります。
- 「空き家バンクへの新規登録件数」は、毎年コンスタントに発生するような内容ではないと考えられますので、R6年度がたまたま70%でも良いと思えます。
- 「空き家バンク利用率」は、登録物件数が分母になると思えますが、HPで写真を見たときに室内の片付けが出来ていない状態の空き家も登録されており、このような空き家はいつまでたっても売買に結びつかないと思えますので、登録する際の要件に「室内の片付けが完了していること」を加えるなどの対応が必要ではないかと思えます。
- R6年度は、移住相談件数も増加し、庄内地域でも社会増となるなど、順調に推移していると思えます。
- 社会動態の推移数が目標を大幅に上回り、県内2位の実績で高い成果を達成したのは、由布市の強みである子育て支援策や補助金制度が機能している証だと考えられます。
- 特に例年社会減傾向にあった庄内地域でも社会増を達成した点は、定住促進に向けた優遇措置などの施策効果が確認され、評価できます。ただし、移住施策を活用した移住者数は前年度より減少し、空き家バンクの新規登録数も目標未達ですので、空き家活用と移住後のフォロー体制強化が今後の課題ではないかと思えます。
- 庄内地域は自然環境に恵まれており、別府や湯布院などの保養地にもアクセスが良いです。家賃や土地代も格安で、リモート勤務が可能な会社員や個人事業主、IT企業などにとって魅力がある立地だと思えます。ニッチな層(特定の需要を持つ層)に絞って移住をアピールするなど、PRの方法によっては、活性化が期待できると考えます。
- 市全体としては移住者も多くプロジェクト全体が評価できる。人口減少地域につ

いては市による分譲地の整備や提供（低価格または無償）など、移住しやすい環境整備による人口増加強化が必要と思料する。

- 移住相談で、空き家ではなく、土地を探している移住希望者が多いです。
- 両親の高齢化などで、由布市にUターンしたいと考えている方々も多いと思う。都会と比べ、給与格差はあると思うが、市としても企業と連携し、人材確保に向けた取り組みを推進してほしい。
- 移住に関しては地域間格差が明確化している。市内全体では長期的に住民減少が続いていくと考えられることから、健全な市政運営の為にもより積極的な取り組みが必要となってくる。総合政策課が窓口として機能しているが、民間企業や民間団体との連携を図りながら、幅広い移住者受け入れを進める事が出来ないか。



## 地域プロモーション推進プロジェクト

### プロジェクト12の概要について

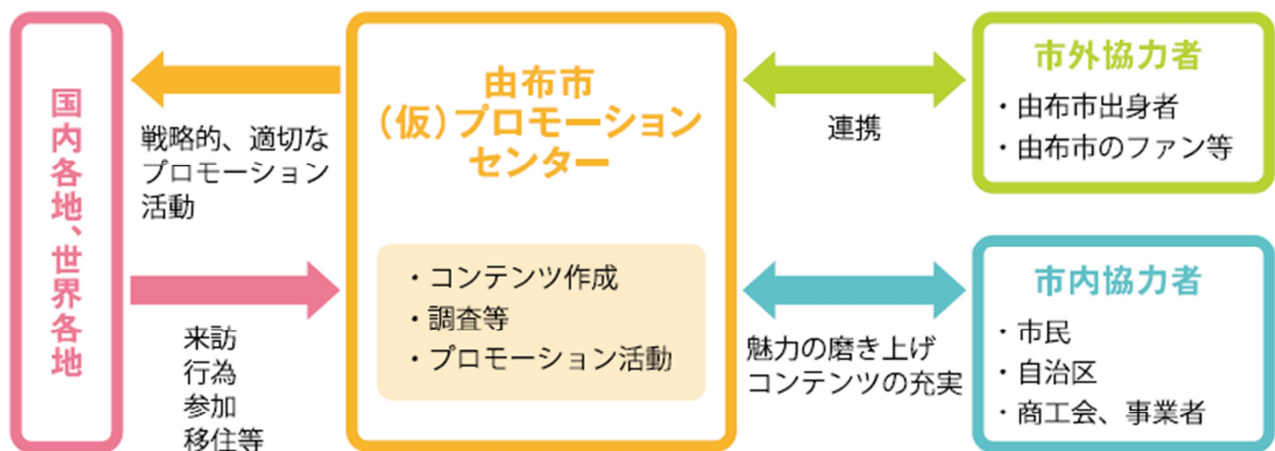
由布市は、豊かな温泉や湧水、自然が作り出す四季折々の風景、神楽等の伝統文化、農業や畜産に支えられた食等の地域資源が豊富です。しかし、その豊富な魅力を市民で共有し、日本全体及び世界の諸外国に対して積極的に表現、発信する機会をつくり出せていません。こうした地域プロモーション<sup>2</sup>については、地域外との連携が有効であるため、そうしたPRネットワークの構築も課題となっています。

市民、行政、企業、団体等が一体となって、市外の人々や企業、団体、大学の協力を得ながら、地域の魅力を自信と誇りを持ってプロモーションできるようになります。プロモーションすることで市民や企業の地域に対する愛着や誇りがより深まります。

このプロジェクトでは、観光PRや市の広報などをはじめとした由布市の戦略的プロモーション、地場の返礼品により由布市の魅力を知ってもらう機会としてのふるさと納税事業などの推進を行います。

#### ■ 推進体制

由布市にプロモーション推進体制を構築し、市民や企業、大学等の市内外の協力者と連携しながら、プロモーション活動を行います。



<sup>2</sup> 【地域プロモーション】

地域の活力を維持・増進し持続的な発展を可能とするため、地域イメージ（人やコミュニティも含めた地域資源の持つ魅力）を高め、地域外にアピールすること。

# 地域プロモーション推進プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）50-51頁（後期）28-29頁

## 1.重点事業

（ 総務 ） 課

事業名	戦略的プロモーション 基盤整備事業
決算額	3,072千円(市費:3,072千円)
【主な取組】 由布市の状況を広く発信するため、SNSでの情報発信を中心に、ラジオ局やテレビ局などと連携して、由布市の情報を県内外問わず広く発信した。 市公式X(旧Twitter)フォロワー数 R6 : 3,472 R5 : 3,375 R4 : 3,248 R3 : 3,098	

（ 財源改革推進 ） 課

事業名	みらいふるさと寄附金推進事業
寄附額	1,023,718千円
基金積立額	490,000千円
【主な取組】 R5年度に引き続き、ふるさと納税(個人版)の収入額増加に向けて、ポータルサイトの増設や返礼品増加の取組みを行った。 直近5年間の寄附額実績 R2年度 103,793千円 R3年度 224,578千円(対前年比 216%) R4年度 557,729千円(対前年比 248%) R5年度 855,912千円(対前年比 153%) R6年度1,023,180千円(対前年比 119%)	

（ 商工観光 ） 課 ※再掲 プラン9

事業名	観光振興事業(重点・総合)
決算額	71,905千円(市費:71,905千円)
【主な取組】 各地域の観光協会やまちづくり観光局と連携し、県内向けのプロモーション事業を主軸とし、観光客数増加に向けた観光振興策を実施した	

（ 庄内地域振興 ） 課

事業名	庄内神楽伝統継承事業(総合)
決算額	40千円(市費:40千円)
【主な取組】 由布市庄内町内の小学生や幼稚園児を対象とした庄内神楽体験授業を行った。	

## 2.連携施策

	由布市の魅力を、国内外にPRする活動を通じて、1日でも多く滞在してもらうように推進した。
--	--

## 3.成果指標

指標名	直近値(H30)	目標値(R7)	実績値		目標達成率	対象事業名	担当課	関係課
地域の魅力を再発見・共有するイベントの開催	-	年1回	R4からR6	0	0.0%	(指定なし)	-	-
国内向けの戦略的プロモーションの試行回数	-	年1回	R4	1	100.0%	観光振興事業	商工観光課	総合政策課等
			R5	1	100.0%			
			R6	1	100.0%			

プロジェクト12  
R6全体達成率C : 50.0% →

プロジェクト12の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	※33点	48点	48点	46点	48点	48点	49点	46点	48点
審議会評点 (平均点)	3点 (3.3)	3点 (3.2)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	3点 (3.2)	3点 (3.2)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.2)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問19『地域の魅力を発信』	R6: 平均値 3.88→ R4: 平均値 3.98 (3.74) R1: 平均値 4.12 (3.96)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問19『地域の魅力を発信』	R6: 平均値 3.09→ R4: 平均値 3.24 (2.96) R1: 平均値 2.97 (2.86)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	4点(4.3)	A評価1事業 B評価2事業↘	昨年度評価(5.0)
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 50.0%	C 昨年度達成率 50.0%
⑥総合評価	17点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(18点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問19『地域の魅力を発信』	R6: 平均値 3.88→ R4: 平均値 3.98 (3.74) R1: 平均値 4.12 (3.96)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問19『地域の魅力を発信』	R6: 平均値 3.09→ R4: 平均値 3.24 (2.96) R1: 平均値 2.97 (2.86)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 50.0%	C 昨年度達成率 50.0%
⑥総合評価	13点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(13点)

## プロジェクト 1 2 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 戦略的プロモーション基盤整備事業

1. 成果指標の魅力再発見イベントは担当が不明確で実績も乏しく、事業見直しや計画からの除外も検討すべきだと感じる。
2. 湯布院は知名度が十分高く、過度な PR は観光過密を招く懸念があり、適正規模を見極めた誘客が必要だと思う。
3. 持続的な観光に向け、観光に資する適正規模や、市に不足している部分を見極め、知名度向上とは別軸の戦略を立てるべきだと思う。
4. 挾間・庄内の魅力発信を強化し、市内全体の底上げを図る取組が重要だと感じる。

#### ② 観光振興事業

1. 観光客数・消費額・宿泊者数はいずれも増加しており、全体として成果は評価できると思う。
2. 観光の質への転換は評価できるが、混雑やごみ問題に加え、子どもの盗撮懸念など生活・安全面の対策も必要だと思う。
3. 郊外駐車場整備や周遊促進、関係団体連携や TIC 活用など分散型観光の強化が重要だと感じる。

#### ③ みらいふるさと寄附金推進事業

1. ふるさと納税額が年々増加し、目標額も突破している点は大きな成果で評価できると思う。
2. 財源確保効果は高いが、返礼品に依存しない、用途明確化による応援型寄附（クラウドファンディングなど）拡大が重要だと思う。
3. 返礼品の魅力向上や宿泊券拡充など、強みを活かした充実も必要だと感じる。

#### ④ 庄内神楽伝統継承事業

1. 神楽体験や神楽祭り、学校指導など継承の取組は、愛着や誇りの醸成に寄与しており評価できる。
2. 神楽体験授業は伝承に効果的であり、今後も継続してほしいと思う。
3. 観光連携や外国人向け発信、地域外人材の参加など幅広い保存体制が必要だと思う。

---

#### 委員質疑と回答

- ふるさと納税について、宿泊券が大半を占めていると思うが、内訳が分かれば、教えてほしい。
- ☞ 宿泊系の返礼品は、宿泊券、クーポン、紙媒体、電子媒体など区分が多岐にわたりますが、寄附額ベースでは、おおよそ8割前後です。

### 評価まとめ

プロジェクト12については、目標としては、イベントやプロモーションの回数等になっており、当該目標だけを見るとプロジェクトの達成があまりできていない状況です。これは明確な担当課を決めていない目標値であるからではないかとの指摘が委員からあっています。

プロモーションについては、これまで、市の広報部門、観光部門、農政部門、移住定住部門など様々な部門が行って来てはいますが、総合計画で描かれた体系的な発信はできていないのが現状です。次期総合計画では、プロモーションの重要性を再度認識し、各分野の発信効果が相乗することを念頭にプロモーションを行い、情報を受け取った『由布のファン』からの二次的、三次的な情報発信による波及効果を生み出すことが必要です。

また、ふるさと納税の増収や、神楽継承事業などは委員から評価を受けており、継続した取り組みが望まれます。

## 委員個別意見

### ①戦略的プロモーション基盤整備事業

- 魅力再発見・共有イベントは担当課が決まっていないのが。不開催の理由ではないでしょうか。次回計画では事業から外すことも選択肢です。湯布院地域は国内外の知名度が現状でも十分に高く、これ以上のプロモーションはオーバーツーリズムを助長する懸念があります。持続的な観光に資する適正規模や、本市に不足している部分を見極めて、単なる知名度向上とは別の戦略を立てた方がよいと思います。
- 挾間地域・庄内地域の魅力発信については市としてさらに強化し全体の底上げを図ってほしい。
- 資料を読みましたが、あまり実働が無かったと感じられる内容でした。
- デジタルマーケティングや MICE 誘致への着手は、客層の分散と高付加価値化に寄与しており評価できます。一方で、課題は「一過性の PR」からの脱却と「エリア間の知名度格差」だと思います。プロモーションの効果を一過性で終わらせないためには、SNS フォロワーとの対話を重視した運用体制が必要ではないでしょうか。また、由布院以外のエリアへ誘客するために、エリア特性を掛け合わせた具体的な着地型商品を造成し、それをプロモーションの核に据える改善策が、市全体の底上げに不可欠だと思います。
- 公式 X のフォロワー数が毎年増加していることは評価できると思います
- プロモーションもよいが、由布岳の姿を定点カメラから映すだけでも、効果があると思います。
- 情報発信の充実は必須。関係課の活動に期待。

### ②観光振興事業

- 観光客数、観光消費額、宿泊者数とも年々増加しており評価できると思います
- 観光の「量」から「質」への転換を掲げ、レスポンスブルーツーリズムを推進している点は評価できますが、現状の由布院駅周辺の混雑や交通渋滞、ごみ問題など、住民生活への支障が顕在化しており、早急な改善が必要だと思います。中心部への車両流入を抑制するための郊外駐車場の整備とパークアンドライドの実証実験を拡

大や、観光客に対してのメッセージを強く発信し、入湯税の使途（環境保全への還元）を明確にすることで、「貢献する観光」という意識を醸成することが必要では。

- 湯布院で、インバウンド観光客から子どもが盗撮されたりするトラブルがあると聞きました。小学校に入ってきたり、登下校中に。対策が必要だと思います。
- 各観光協会や由布市まちづくり観光局と連携した取組みは他の行政区と比べても積極的に行われており評価できる。
- 市内周遊の強化。レスポンスブルーツーリズムの実施。TIC のより積極的な活用。

### ③みらいふるさと寄附金推進事業

- ふるさと納税額が大幅に増加していることは高く評価できると思います
- 寄附額が目標の10億円を突破したことは大きな成果であり、財源確保としての貢献度は極めて高いと思います。しかし、制度の先行き不透明感や自治体間競争の激化を考慮すると、「モノ」頼みの戦略には限界があると考えられるので、今後、寄附金の使い道をより具体的なプロジェクトに設定し、返礼品の豪華さだけでなく、「市の取り組みへの応援」を動機とした、持続可能な寄附文化を醸成することが重要だと思います
- ふるさと納税額は年々増加しており、評価できる。
- 返礼品強化を進める。宿泊券の拡充。

### ④庄内神楽伝統継承事業

- 市民や企業の地域に対する愛着や誇りの醸成に貢献していることは間違いのないと思います。神楽体験教室はやり方次第で外国人観光客に訴求する可能性がありますので、検討方お願いします。由布院地区からの分散にもつながります。
- 神楽体験授業は伝承に効果的だと思いますので継続してほしいと思います
- 庄内神楽祭りの開催や学校での指導など、継承への地道な努力は評価できますが、人口減少・少子化の影響を受けている事業であり、「地域の努力のみ」での維持は限界に近いのではないかと思います。今後、「観光×神楽」の本格化や、地域外の人間が支え手として関われるオープンな保存体制（サポーター制度）を構築することも持続可能性を高めることになるのではと思います。

- 参加人口の増加に向けて発信活動の強化。



## ゆふツーリズム推進プロジェクト

### プロジェクト13の概要について

由布市は、由布岳や温泉等の自然環境や神楽等の歴史文化等様々な地域資源があります。由布市の魅力は、これらの資源を直接体験することでより深く感じられるものですが、現状は訪問者にそのような体験を十分に提供できていません。

由布市の地域資源を十分に活用した魅力あふれるツーリズム（『ゆふツーリズム』）を展開していくため、このプロジェクトでは、グリーンツーリズムの推進や、観光情報を発信する由布市まちづくり観光局（TIC）の利用促進、クアオルト事業などを展開します。

#### ■ 推進体制



ツーリズムの企画、広報、実施、評価体制を整える。企画、実施、広報にあたっては、市民や事業者等と連携して取り組む。

# ゆふツーリズム推進プロジェクト

総合計画 重点戦略プラン（前期）54-55頁（後期）30-31頁

## 1. 重点事業

(農政) 課

事業名	地域資源利活用推進事業(重点・総合)
決算額	7,581千円(市費:7,581千円)
【主な取組】	農泊の受け入れ及び特産品の開発を行い、地域の魅力発信を中心に取り組みを行った。 ・農泊日数:259泊 ・特産品(オリジナル商品)販売額:1,163千円

(総合政策) 課

事業名	クアオルト推進事業(総合)
決算額	1,721千円(市費:1,721千円)
【主な取組】	水中運動の継続、クアオルト健康ウォーキングガイドの育成、日本クアオルト協議会大会(7市2町)への参加(上山市)

(農政) 課

事業名	都市農村交流推進事業(重点・総合)
決算額	98千円(市費:98千円)
【主な取組】	由布市グリーンツーリズム研究会(農泊農家)を中心として、都市と農村の交流を推進した。中学・高校の修学旅行等の受入のため、誘致活動や他事業との連携を図った。

### 推進体制



## 2-2 連携施策

<p>重点戦略プラン 9</p> <p>滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト</p>	観光(振興・基盤整備)事業と併せて、新たなツーリズム(商品)開発に向けて協議した。
<p>重点戦略プラン 12</p> <p>地域プロモーション推進プロジェクト</p>	「庄内神楽伝統継承事業」や「移住定住事業」と連携し、農泊・神楽体験等・移住促進に向けて取組んだ。

## 3. 成果指標

指標名	基準値(H30)	目標値(R7)	実績値		目標達成率	対象事業名	担当課	関係課
			R4	R5				
グリーンツーリズム 農泊数	1,200泊/年	6,000泊/年	R4	766	12.8%	地域資源利活用推進事業	農政課	-
			R5	788	13.1%			
			R6	259	4.3%			
TIC (まちづくり観光局) 利用者数	108,243人	150,000人	R4	92,900	61.9%	観光振興事業	商工観光課	-
			R5	105,914	70.6%			
			R6	98,283	65.5%			
クアオルト プログラム数	1事業	2事業	R4	1	50.0%	クアオルト推進事業	総合政策課	-
			R5	1	50.0%			
			R6	1	50.0%			

プロジェクト13  
R6全体達成率C:39.9%↓

プロジェクト13の評価点について

計画	前期計画				後期計画				
事業実施年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
評価年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
審議会評点合計	19点	42点	47点	49点	49点	47点	47点	42点	42点
審議会評点 (平均点)	2点 (1.9)	3点 (2.8)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.1)	3点 (2.8)	3点 (2.8)

評価項目集計(25点満点 ※市民意識調査は、R4までは4段階評価、R6から5段階評価へ変更  
( )内は、「わからない」を1点とし、5段階評価で再計算した参考値

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.57→ R4: 平均値 3.66 (3.39) R1: 平均値 3.72 (3.59)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.07→ R4: 平均値 3.07 (2.69) R1: 平均値 2.99 (2.56)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
④庁内事務事業評価	4点(4.0)	B評価3事業	昨年度評価(4.3)
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 39.9%	C 昨年度達成率 44.6%
⑥総合評価	17点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(17点)

評価項目集計(20点満点 庁内事務事業評価抜きでの評価)

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.57→ R4: 平均値 3.66 (3.39) R1: 平均値 3.72 (3.59)
②市民意識 (充足)	3点	R6年版「市民意識調査」 問18『地域資源を活かした交流』	R6: 平均値 3.07→ R4: 平均値 3.07 (2.69) R1: 平均値 2.99 (2.56)
③審議会評価	3点	C 事業取組が概ね達成されている	C 昨年度審議会評価
⑤客観指標結果	3点	C 目標値の平均達成率 39.9%	C 昨年度達成率 44.6%
⑥総合評価	13点	B 計画がかなり達成されている	B 昨年度総合評価(13点)

## プロジェクト 13 に対する審議会委員意見について

### 委員意見要約

#### ① 地域資源利活用推進事業

1. 農泊実績の大幅減少を踏まえ、修学旅行生の農泊を見込む中心の従来型モデルは見直しが必要だと思う。
2. 宿泊者増のためのニーズ分析を行い、農泊型施設への新たな誘導策を検討してほしい。
3. 特産品開発は、外部企業連携など成果が出ており、地域資源の収益化傾向は評価できる。
4. ゆふイズムが、生産者と飲食店・旅館をつなぐ役割を強める支援が必要だと思う。

#### ② クアオルト推進事業

1. クアオルト構想は由布院の特色だが、市民ニーズとの乖離があると感じる。抜本の見直しが必要だと思う。
2. 市のクアオルト推進協議会の再始動や全国大会誘致は評価できるが、クアオルトの認知度が低く発信や見せ方の転換が必要だと感じる。
3. クアオルトなど、専門用語をあまり使わず、温泉と健康を軸にした分かりやすい展開が重要だと思う。

#### ③ 都市農村交流推進事業

1. 外国人観光客の中には農村体験に関心のある層もいると思われ、ターゲット層の見直しも検討してはどうかと思う。
2. 農泊は、修学旅行生の受入れだけでは継続的な取り組みは難しく、少人数向け体験型への転換も一案だと感じる。
3. 農泊の需要減や受入農家側の高齢化を踏まえ、事業内容の見直しや他施策との整

理も必要ではないかと思う。

4. 農泊、特産品開発だけでなく、専業農家の基盤整備への支援も重視してよいのではないかと思う。

---

## 委員質疑と回答

- ・評価表による質疑なし

## 評価まとめ

プロジェクト13については、昨年度の評価に引き続き、農泊・ゆふイズムの今後の在り方について、多くの委員が言及しています。

まず農泊については、これまでの手法では限界があるのは明確なことから、抜本的にアプローチを替えるなど、次期総合計画を推進する中で、迅速に研究・実践していくことが重要です。

ゆふイズムは、特産品開発については、一定の成果が出始めていることから、今後の進展が望まれるとともに、農泊、地産地消分野で農家などの生産者や企業をつなぐ役割が期待されます。

クアオルト事業に関しては、令和8年度の全国大会を控え、今後の取り組みがより効果のあるものになるよう、推進協議会を中心に取り組むことが望まれます。

## 委員個別意見

### ① 地域資源利活用推進事業

- 目標値の4.3%まで減少したという現実を直視して、従来型の修学旅行生をターゲ

ットとした路線はしばらく止めにしたほうがよいと思います。宿泊者数は大幅の増加していますから、宿泊者のニーズを分析した上でその一部を、農泊から模様替えした施設に誘導する方策が求められます。イギリスの Farm stay が参考になるかもしれません。

- 農泊日数は低調ですが、特産品の開発・販売が進んでいることは評価できます。
- 特産品開発は、ふるさと納税や外部企業との連携が進み、地域資源の収益化という点で成果を上げているが、農泊の激減は深刻であり、コロナ禍後の修学旅行の海外回帰やニーズ変化を読み切れていないように感じる。日本の農村体験は海外富裕層に人気があるため、今後は「教育旅行」という安価な大量受け入れモデルから、少人数でも高単価な「インバウンド体験」へと舵を切ることにも検討していただきたい。
- グリーンツーリズムにおける6000泊の整合性がないと考えられる。現状に即したKPIの設定が必要。ユフイムズの活性化に向けた支援を求める。
- 「ゆふいづム」については現在の特産品の開発に加え、農業生産者と飲食・旅館等を繋ぐハブ機能としての活用も検討してほしい。

## ②クアオルト推進事業

- クアオルト構想は、「生活保養地」を目指した由布院の地域づくりの大切な特徴の一つだと思いますが、市民ニーズとの乖離が大きくなっていますので、元々の考え方を現代風にアレンジしつつ、抜本的な見直しが必要ではないでしょうか
- 協議会の再開や全国大会誘致など、事業を再始動させた点は評価できるが、客観的に見て「クアオルト」の認知度は極めて低く、現状では一部の関係者による活動に留まっているように感じられる。難解なドイツ語の概念を前面に出すのではなく、「由布院温泉で整う」といった直感的なウェルネス・ツーリズムへと見せ方を転換することも必要では。
- ウォーキングガイドの育成など、一定の取組は出来ていると思います
- 全国大会を控えているので、今後の活性化に期待。

### ③都市農村交流推進事業

- 昨年も書きましたが、増加傾向が著しい外国人観光客の中には日本の農村に興味をもつ層がいると思いますので、そこにシフトが可能かどうかを探ってみてはいかがでしょうか。
- 修学旅行生を確保できれば実績は一気に増えると思いますが、学校行事のため学生はリピーターにはなりにくいのではないかと思いますし、農作業等により農業に興味を持ったとしても中学校や高校がある出身地で農業を始めることになるので由布市の農業発展のメリットにはならないのではないかと思います。農家の受入体勢などを考慮し、リピーター確保を目指すのであれば、少人数のグループを狙う営業の方が良いのではないかと思います
- 教育旅行ニーズの低下と受入農家の高齢化という「需要と供給両面からの縮小」に直面しており、事業存続の岐路にあるのではないかと感じます。評価としては、現状維持は困難であり抜本的な見直しが必要と感じます。「地域資源利活用推進事業との統合」は、行政コストの無駄を省く上で適切な判断であり進めていただきたい。今後は、無理に「農泊（宿泊）」にこだわらず、日帰り観光客向けの短時間農業体験などの高齢化した地域でも持続可能な新しい交流モデルを模索すべきではないかと思う。
- 農泊やPR、特産品開発よりも、予算を専業農家が案手下供給ができる基盤を整えることに使ってもらいたいです。

